

# 大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）の結果速報 （平成 29 年 11 月実施分）

## I 実施結果の概要

### 1. 実施期間

平成 29 年 11 月 13 日（月）～24 日（金）

上記の期間内に、試行調査に参加する高等学校及び中等教育学校（以下「協力校」という。）が任意の日時で実施（実施会場は各協力校）。

なお、試行調査には、全高等学校・中等教育学校の約 38%（1,889 校）が参加。

### 2. 実施科目及び受検者数等

#### ① 実施科目、受検者数及びマーク式問題の答案読取状況等

教科名	科目名	試験時間	受検者数 (A)	11月27日時点での マーク式問題の 答案読取件数 (B)	読取率 (%) (B/A)	受検対象者
国語	国語	100分	64,617	46,368	71.8	高校2年生 以上
数学①	数学Ⅰ・数学A	70分	53,788	37,233	69.2	
数学②	数学Ⅱ・数学B	60分	16,015	11,295	70.5	原則 高校3年生
地理歴史	世界史B	各60分	6,374	3,996	62.7	
	日本史B		8,308	5,392	64.9	
	地理B		4,875	3,337	68.5	
公民	現代社会	60分	5,166	3,759	72.8	
理科	物理	各60分	6,139	3,968	64.6	
	化学		7,004	4,389	62.7	
	生物		5,131	3,417	66.6	
	地学		712	477	67.0	
合計			178,129	123,631	69.4	

※ 受検者数は11月29日時点で協力校から報告されたもの。

#### ② 都道府県別協力校数及び受検者数

都道府県	協力校数	受検者数	都道府県	協力校数	受検者数	都道府県	協力校数	受検者数	都道府県	協力校数	受検者数
北海道	72	5,885	東京都	192	17,306	滋賀県	15	1,551	香川県	15	1,203
青森県	23	1,970	神奈川県	110	10,301	京都府	49	4,596	愛媛県	23	2,019
岩手県	23	1,912	新潟県	37	3,470	大阪府	116	10,226	高知県	10	988
宮城県	34	2,733	富山県	20	1,670	兵庫県	49	6,555	福岡県	85	8,021
秋田県	17	1,306	石川県	23	4,196	奈良県	25	2,309	佐賀県	13	1,440
山形県	21	1,650	福井県	13	1,343	和歌山県	12	1,465	長崎県	26	1,986
福島県	32	2,921	山梨県	16	1,493	鳥取県	16	1,172	熊本県	27	2,229
茨城県	55	4,814	長野県	41	3,525	島根県	15	1,124	大分県	16	1,444
栃木県	29	2,992	岐阜県	32	3,151	岡山県	37	3,270	宮崎県	20	1,658
群馬県	31	2,787	静岡県	59	5,459	広島県	59	5,162	鹿児島県	27	2,469
埼玉県	54	8,292	愛知県	133	13,739	山口県	26	1,802	沖縄県	19	1,609
千葉県	85	7,400	三重県	26	2,509	徳島県	11	1,007	計	1,889	178,129

※ 協力校数及び受検者数は11月29日時点で協力校から報告されたもの。

なお、上記の受検者数は延べ人数であり、例えば、ある受検者が2科目受検している場合には、延べ2名として集計。

## II 試行調査問題の概要

・ 国語	3
・ 数学Ⅰ・数学A	9
・ 数学Ⅱ・数学B	17
・ 世界史B	25
・ 日本史B	35
・ 地理B	43
・ 現代社会	49
・ 物理	55
・ 化学	61
・ 生物	67
・ 地学	75

※ 各科目の「問題のねらい，主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等」について

1. 解答番号及び解答記号は、問題冊子の  や  などに相当。
2. 小問正答率は11月27日時点でのマーク式問題についての速報値。

【国語】

問題のねらい，主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

第1問 問題のねらい

現代の社会生活で必要とされる実用的な文章のうち，高校生にとって身近な「生徒会規約（部活動規約）」等を題材としている。それらを踏まえて話し合う言語活動の場を設定し，複数の資料を用いることにより，テキストを場面の中での確に読み取る力，及び設問中の条件として示された目的等に応じて思考したことを表現する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1 1	<b>C 読むこと</b> (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	目的等に応じて情報をとらえ，テキスト全体の要旨を把握することができる。	<b>【記述式】</b> テキスト（会話文）の内容を踏まえ，他のテキスト（規約）の中から，問いに示された目的（要望への回答となるよう生徒会新聞に記載する内容をまとめること）に応じて，必要な情報（条件と手続き）をとらえ，的確に説明する。	
問2 2		言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	目的等に応じて情報をとらえ，テキスト全体の要旨を把握することができる。	<b>【記述式】</b> テキスト（会話文）の内容を踏まえ，他のテキスト（規約）の内容をとらえ，前提条件（双方の顧問の許可があること）を踏まえた上で，必要な情報（規約には見られない内容）を的確に説明する。	
問3 3	<b>B 書くこと</b> (1) イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	情報の扱い方に関する知識・技能	テキストを踏まえ，推論による情報の補足や，既有知識や経験による情報の整理を行って，テキストに対する考えを説明することができる。 テキストを踏まえ，条件として示された目的等に応じて，必要な情報を比較したり関連付けたりして，テキストに対する考えを説明することができる。	<b>【記述式】</b> テキスト（会話文）の内容をとらえ，他の複数のテキスト（資料①～③）を比較し，全体の要旨を理解した上で，指定された登場人物の立場に立って，対立点を整理し，具体的な根拠を明らかにして，基本的な立場と予測される意見について考え，的確に説明する。	

## 第2問 問題のねらい

図表や写真が含まれた論理的な文章を題材としている。図表や写真と文章とを関連付けながら、構成や展開をとらえるなど、テキストを的確に読み取る力を問うとともに、設問中に示された条件に応じて考えを深め、テキストの内容と結び付く情報とそれらの適切な論理の展開を判断する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)	
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力			
問1	1	言葉の特徴や 使い方に関する 知識・技能 (文や文章)	目的等に応じて情報 をとらえ、テキスト全 体の要旨を把握するこ とができる。	テキストの中における語句の 意味を文脈に即して適切にとら える。	53.1	
					31.2	
問2	3	C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即 して的確に読み取った り、必要に応じて要約や 詳述をしたりすること。	言葉の特徴や 使い方に関する 知識・技能 (文や文章)	テキスト全体を通じ て対比されている事項 について考察し、共通 点や相違点を整理する ことができる。	図の内容を踏まえ、テキスト の中で言及されている二つの事 柄を対比しながら適切に整理す る。	61.2
問3	4	言葉の特徴や 使い方に関する 知識・技能 (文や文章)	目的等に応じて情報 をとらえ、テキスト全 体の要旨を把握するこ とができる。	テキストに示されている図の 内容について、文章との関連に おいて適切にとらえる。	19.4	
問4	5	言葉の特徴や 使い方に関する 知識・技能 (文や文章)	テキスト全体を通じ て対比されている事項 について考察し、共通 点や相違点を整理する ことができる。	テキストに表現された事柄に ついて、文章全体に即して適切 に整理する。	35.4	
問5	6	C 読むこと (1) エ 文章の構成や展開を確 かめ、内容や表現の仕方 について評価したり、書 き手の意図をとらえたり すること。	情報の扱い方 に関する知 識・技能	テキストを踏まえ、 推論による情報の補足 や、既有知識や経験に よる情報の整理を行っ て、テキストに対する 考えを説明することが できる。 テキストに含まれて いる情報を統合したり 構造化したりして、内 容を総合的に解釈し、 テキストに対する考え を説明することができる。	テキスト全体の要旨を踏ま え、条件として示された場面設 定(異なる視点を加えて議論す ること)に応じて、情報を統合 して論じることができる内容を 適切に判断する。	44.3

### 第3問 問題のねらい

文学作品（「幸福な王子」）を踏まえて創られた小説を題材としている。本文に即して登場人物の心情や言動の意味をとらえるなど、テキストを的確に読み取る力を問うとともに、文章に示された原作のあらすじと創作された内容との比較を通して、文学的な文章における構成や表現の工夫を読み取る力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)				
		知識・技能	思考力・判断力・表現力						
問1	1	<b>C 読むこと</b> (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。  <b>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b> イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙）	テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。	テキストの中における語句について、文脈との関連において意味を理解し、適切な表記（適切な漢字）をとらえる。	65.8			
	2					57.8			
	3					42.6			
問2	4	<b>C 読むこと</b> (1) ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる。	テキストの特定の場面における登場人物の特徴について、本文の中から適切な情報を示す。	80.3			
問3	5・6					言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テキスト全体における人物相互の関係の变化や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。	テキストの中の会話に着目し、文脈を踏まえて登場人物の心情を適切に示す。	24.8
問4	7	<b>C 読むこと</b> (1) エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。	テキスト全体の内容を把握し、冒頭の原作のあらすじとその後のテキストとの関係を比較したり関連付けたりして適切に判断する。	18.6			
問5	8					言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる。	テキスト全体の内容を把握し、観点として示された構成や表現の効果を適切に示す。	42.3
	9								36.7
	10	49.9							

## 第4問 問題のねらい

一つの古文のみを提示するのではなく、表記の異なる二つの古文（二つの書写本）とそれらに関する注釈書を題材とすることで、複数のテキストを比較することを通して、登場人物の心情や言動の意味、表現の工夫をとらえ、古文を的確に理解する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（語彙）	テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。	テキストの文脈との関連において、補う語句を適切にとらえる。	46.1
問2 2	C 読むこと (1) ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。	我が国の言語文化に関する知識・技能	テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。	テキストの中における和歌について、文法や修辞、語の意味を通して内容を適切にとらえる。	22.5
問3 3	C 読むこと (1) ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テキスト全体における人物相互の関係の変化や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。	テキストの中の会話に着目して、文脈を踏まえて登場人物の言動の意味を適切に示す。	30.3
問4 4	C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる。	テキストに表現された出来事について、文脈に即して内容を適切にとらえる。	20.4
問5 5	C 読むこと (1) エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（表現の技法）	テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる。	複数のテキスト（二つの古文：書写本）を比較して、相違点を吟味し、表現の効果を適切に示す。	22.9
問6 6		言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（文や文章）	テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。	テキスト全体の要旨を把握し、他の複数のテキスト（二つの古文：書写本）の相違点を踏まえ、書き手の意図を適切に判断する。	28.9

## 第5問 問題のねらい





漢文を題材として提示するだけでなく、生徒の言語活動の場面を想定し、関連する漢詩やその説明などからなる文章を題材とすることで、複数のテキストを比較することを通して、登場人物の心情や言動の意味等をとらえ、漢文を的確に理解する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)	
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力			
問1	1	C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。  伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (語彙)	テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。	テキストの文脈との関連において、語句の読み方を適切にとらえる。	76.9
	2					65.0
問2	3	イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (語彙)	テキストにおける語句の意味や比喻等の内容を適切にとらえることができる。	テキストの文脈との関連において、語句の意味を適切にとらえる。	12.5
	4					26.2
問3	5	C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。  伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。	我が国の言語文化に関する知識・技能	テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる。	テキストの内容を踏まえて、文脈に即した適切な訓読を示す。	30.2
問4	6	C 読むこと (1) ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (文や文章)	テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる。	テキストの中の会話に着目して、文脈を踏まえて登場人物の言動の意味を適切に示す。	41.4
問5	7	C 読むこと (1) ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。  伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。	我が国の言語文化に関する知識・技能	テキストに含まれている情報を統合したり、構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる。	テキスト全体の内容を踏まえて、漢詩の形式と我が国の言語文化における漢詩文の位置を適切に判断する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	14.3
問6	8・9	C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (文や文章)	テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる。	複数のテキスト(文章Ⅰと文章Ⅱ)を比較し、相違点を理解し、適切な情報を整理する。	22.3
問7	10	C 読むこと (1) エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	言葉の特徴や使い方に関する知識・技能 (文や文章)	テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる。	テキスト全体の要旨を把握し、複数のテキスト(文章Ⅰと文章Ⅱ)の相違点を踏まえ、漢詩が表現しようとした内容を適切に判断する。	32.8

# 【国語】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

- ※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。
- ※ 作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げられているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。
- ※ ここでの「テキスト」は、文章、及び、文章になっっていない断片的な言葉、言葉が含まれる図表などの文章以外の情報を含む。
- ※ 「話すこと・聞くこと」の領域を意識した設定も取り入れる。

大学入学共通テストにおいて問いたい 「思考力・判断力・表現力」		テキストの内容や解釈を解答する問題		考えを解答する問題	
① テキストの部分把握、精査・解釈して解答する問題 	テキストの内容や解釈を解答する問題	<b>＜読むこと＞</b> 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）	<b>＜読むこと＞</b> 【考えの形成】（文章を読んだ上で理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること）	<b>＜書くこと＞</b> 【題材の設定】 【内容の検討】 【情報の収集】（目的や意図に応じて題材を選び、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）	<b>＜書くこと＞</b> 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】 【記述】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）
		テキストの部分に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる (例) ○ テキストにおける語句の意味や比喩等の内容を適切にとらえることができる ○ テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる ○ テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる	テキストの全体に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる (例) ○ テキスト全体における書き手の考えとその根拠をとらえることができる ○ 目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる ○ テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる ○ テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる ○ テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる		
② テキストの全体把握、精査・解釈して解答する問題 	テキストの内容や解釈を解答する問題	<b>＜読むこと＞</b> 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）	<b>＜読むこと＞</b> 【考えの形成】（文章を読んだ上で理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること）	<b>＜書くこと＞</b> 【題材の設定】 【内容の検討】 【情報の収集】（目的や意図に応じて題材を選び、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）	<b>＜書くこと＞</b> 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】 【記述】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）
		テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それに基づき考えを形成することができる (例) ○ テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行って、テキストに対する考えを説明することができる ○ テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる ○ テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○ テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○ テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○ テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる		
③ テキストの精査・解釈に基づく考えを解答する問題 	考えを解答する問題	<b>＜読むこと＞</b> 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）	<b>＜読むこと＞</b> 【考えの形成】（文章を読んだ上で理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること）	<b>＜書くこと＞</b> 【題材の設定】 【内容の検討】 【情報の収集】（目的や意図に応じて題材を選び、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）	<b>＜書くこと＞</b> 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】 【記述】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）
		テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○ テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行って、テキストに対する考えを説明することができる ○ テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる ○ テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○ テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○ テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○ テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる		
④ テキストの精査・解釈を踏まえて発展させた自分の考えを解答する問題 	考えを解答する問題	<b>＜読むこと＞</b> 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）	<b>＜読むこと＞</b> 【考えの形成】（文章を読んだ上で理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること）	<b>＜書くこと＞</b> 【題材の設定】 【内容の検討】 【情報の収集】（目的や意図に応じて題材を選び、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）	<b>＜書くこと＞</b> 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】 【記述】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）
		テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○ テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○ テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○ テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○ テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○ テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○ テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる		



# 【数学Ⅰ・数学A】

## 問題のねらい，主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

### 第1問〔1〕 問題のねらい

コンピュータのグラフ表示ソフトを用いた授業場面を設定し，二次関数の係数の値の変化に伴ってグラフが移動する様子を考察する問題である。単に計算によって式や数値を求める問題とはならないように工夫している。

論理的に推論したり解決過程を振り返ったりしながら，見いだした事柄の根拠を数学的な表現を用いて説明する力を問う。

解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	「数学Ⅰ」 (3) 二次関数 ア 二次関数とそのグラフ	事象を数学化した り，数学的に解釈 したり，表現・処 理する技能	焦点化した問題を目的に応じて 数・式，図，表，グラフなどを活用 し，一定の手順にしたがって数学的 に処理することができる。	与えられたグラフから二次 関数の各項の係数の組合せと して最も適当なものを特定す る。	51.5
(2)		数学における基本 的な概念や原理・ 法則の体系的理解	焦点化した問題を数学的な見方・ 考え方を基に，的確かつ能率的に処 理することができる。	与えられた二次関数の定数 項の値だけを変化させたとき に，頂点がどのように移動す るかを考察する。	78.9
(3)		数学における基本 的な概念や原理・ 法則の体系的理解	解決過程を振り返るなどして，統 合的・発展的に考えることができ る。	与えられた二次関数の二次 の項の係数の値を変化させた とき，頂点が移動する領域に ついて考察する。	45.0
エ					35.2
(4)	数学における基本 的な概念や原理・ 法則の体系的理解	問題解決の構想等を理解したり， その構想の根拠を数学的に説明し たりすることができる。  目的に応じて，自分の考えなどを 数学的な表現を用いて的確に説明す ることができる。	【記述式】 与えられた二次関数の一次 の項の係数の値を変化させた とき，頂点が第1象限及び第 2象限に移動しない理由を記 述する。		

第1問〔2〕 問題のねらい

三角形の形状と三角比に関する命題について、その探究過程の会話文を読みながら、命題の条件を変えるなどして論理的・発展的に考察する問題である。

得られた結果を基に批判的に検討し、概念を広げたり深めたりする力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	オ	「数学Ⅰ」 (2) 図形と計量 ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	正弦や余弦の値を求め	73.2
	カ					71.1
(2)	キ	「数学Ⅰ」 (2) 図形と計量 ア 三角比 (イ) 鈍角の三角比	数学的な問題解決に必要な知識	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	鈍角の正弦の値と鋭角の正弦や余弦の値の関係をを利用して、与えられた正弦の値を求める。	41.0
	ク					55.3
(3)	ケ	「数学Ⅰ」 (1) 数と式 ア 数と集合 (イ) 集合	事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる。	二つの命題の証明に対する二つの主張を批判的に考察し、それらの正誤を判断する。	24.8
(4)	コ	「数学Ⅰ」 (2) 図形と計量 ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理	数学的な問題解決に必要な知識	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	三角形の各辺の長さを外接円の半径 $R$ と内角 $A, B, C$ を用いて表す。	56.6
	サ, シ					43.2
(5)	ス, セ		数学的な問題解決に必要な知識	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる。	前問とは異なる方法で、 $AB$ の長さを $R$ 、 $\sin B$ 、 $\cos B$ を用いて表す。	22.5
(6)	(イ)	「数学Ⅰ」 (2) 図形と計量 ア 三角比 (イ) 鈍角の三角比	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりして統一的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる。  問題解決の構想等を理解したり、その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる。	【記述式】 $B$ が鈍角である場合の証明は、 $B$ が鋭角である場合の証明をどのように修正したらよいかを考察する。	
(7)	ソ	「数学Ⅰ」 (1) 数と式 ア 数と集合 (イ) 集合	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる。	これまでの考察全体を振り返り、前提と結論の必要性や十分性を判断する。	46.4

第2問〔1〕 問題のねらい

文化祭で販売するTシャツの価格を、一次関数や二次関数を活用して決める問題である。

問題に示されたデータから関数関係を見いだして問題解決する力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	ア	「数学Ⅰ」 (3) 二次関数 ア 二次関数とそのグラフ	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する(事象を数学化する)ことができる。	Tシャツの売上額などを予測するために、アンケート調査の結果を用いてTシャツ1枚の価格と累積人数、売上額の関係を考察する。	62.7
	イ					42.4
	ウ					25.5
(2)	エオカキ	「数学Ⅰ」 (3) 二次関数 イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小	数学的な問題解決に必要な知識	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる。	二次関数の性質を活用し、売上額が最大となる価格を求める。	6.8
(3)	クケコサ	イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。 数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	二次関数の性質を活用し、利益が最大となる価格を求める。	3.0

第2問〔2〕 問題のねらい

都道府県別の観光客数やその消費総額などのデータについて、散布図や箱ひげ図を用いたり、データを処理したりして考察する問題である。

散布図におけるデータの特徴を読み取るとともに、その方法を数学的な表現を用いて説明する力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	シ	「数学Ⅰ」 (4) データの分析 イ データの相関	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	散布図から観光客数と消費総額の相関係数を求める。	35.9
(2)	(ウ)		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	問題解決の構想等を理解したり、その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる。 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる。	【記述式】 散布図を活用して消費額単価が最も高い県を表す点を特定する方法を説明する。	
(3)	ス		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。	前問の方法を用いて散布図から消費額単価が最も高い県を表す点を特定する。	39.0
(4)	セ	「数学Ⅰ」 (4) データの分析 ア データの散らばり	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。	観光客数や消費総額、消費額単価について、箱ひげ図や散布図から読み取れる事柄として正しいものを考察する。	10.0
(5)	ソ	「数学Ⅰ」 (4) データの分析 イ データの相関	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	日常生活や社会の問題における事象の数量等に注目して数学的な問題を見いだすことができる。 解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。	行祭事・イベントの開催数と県外からの観光客数との関係について、散布図から読み取れる事柄として正しいものを考察する。	12.1

第3問（選択率67.7%） 問題のねらい

高速道路の交通量について、相対度数を確率とみなして確率モデルを設定し、渋滞状況を考慮して効率のよい交通量の配分を考察する問題である。

社会の事象を数理的にとらえ、数学的に処理し数値を求めたり、求めた値を元の事象に戻してその意味を解釈する力を問う。

解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1) アイウエ	「数学A」 (1) 場合の数と確率 イ 確率 (ア) 確率とその基本的な法則	数学的な問題解決に必要な知識	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだすことができる。	高速道路の渋滞状況に関する調査内容を理解し、仮定に基づいて渋滞表示のない場合の確率を計算する。	47.7
(2) オカキク		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	仮定に基づいて、ある地点での通過台数の確率を、確率の積の法則を用いて計算する。	20.8
(3) ケコサ	「数学A」 (1) 場合の数と確率 イ 確率 (ウ) 条件付き確率	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ率的に処理することができる。	仮定に基づいて、ある地点での通過台数の条件付き確率を計算する。	10.5
(4) シスセソ	「数学A」 (1) 場合の数と確率 イ 確率 (ア) 確率とその基本的な法則	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ率的に処理することができる。	渋滞表示がある場合の通過台数の確率を計算する。	7.5
(5) タチツテ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだすことができる。	新たな仮定を理解し、その仮定に基づいて通過台数を計算する。	17.2
トナニ					15.7
(6) ヌ	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。	条件を満たす通過台数となるように、仮定に基づき最適な渋滞中の表示を考察する。	12.0	

※第3問～第5問から2問を選択して解答

第4問（選択率83.1%） 問題のねらい

正四面体に成り立つ性質について、コンピュータソフトを用いて探究する場面を取り上げ、空間図形の性質を用いて論理的・発展的に考察する問題である。

空間図形に成り立つ性質を論理的に説明したり、得られた結果を批判的に検討し発展させたりする力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	ア	「数学A」 (3) 図形の性質 イ 空間図形	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	空間図形において、ある条件を満たす四角形の4辺が等しいことの証明に必要な根拠を考察する。	65.0
	イ					66.1
(2)	ウ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	前問とは異なる考え方に基づく証明の方針を理解し、証明を完成させる。	33.7
	エ, オ					26.6
	カ					34.7
(3)	キ		数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる。 解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる。	正四面体における辺と線分の垂直条件について、それを証明するために用いる空間図形の性質を考察する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	3.1
(4)	ク		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる。	正四面体において見いだした性質が、一般の四面体においても成り立つ条件について考察する。	5.7

※第3問～第5問から2問を選択して解答

第5問（選択率49.2%） 問題のねらい

あるルールに基づき数字を書き込んだ方盤で成り立つ性質を、約数・倍数の関係や二元一次不定方程式の整数解に着目して考察する問題である。

事象の特徴をとらえて数学化し、問題の本質を見いだす力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	ア	「数学A」 (2) 整数の性質 ア 約数と倍数	数学的な問題解決に必要な知識	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	方盤に数字を書き込むルールを把握し、どんな数がどこに入るかについて考察する。	77.5
	イ					73.1
(2)	ウ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学的な問題の本質を見いだすことができる。(洞察力)	整数の性質を用いて、方盤に0が現れないための必要十分条件を見いだす。	46.5
(3)	エ	「数学A」 (2) 整数の性質 イ ユークリッドの互除法	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	ある方盤の特定の行において、左から何列目に1があるかを求める問題を一次不定方程式の整数解を求めることに帰着させて解く。	38.6
	オカ					7.3
(4)	キ	「数学A」 (2) 整数の性質 ア 約数と倍数	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学的な問題の本質を見いだすことができる。(洞察力)	前問の方盤の各行に0が何個あるかについて、約数・倍数の関係を活用して論理的・発展的に考察する。	22.9
	ク					13.0
	ケコ					11.3
(5)	サ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる。 数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる。	解決過程を振り返り、その考え方を、方盤の各行の数字の表れ方についての考察に活用する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	0.9

※第3問～第5問から2問を選択して解答

# 【数学】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

## 検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

	A	B	C	D	E
<b>①マーク式</b> 多肢選択式・穴埋め式	日常生活や社会の問題を数理的にとらえること 数学の事象における問題を数学的にとらえること	数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること	焦点化した問題を解決すること	解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすること	数学的な表現を用いて表現すること
	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる	数学的な問題の本質を見いだすことができる（洞察力）	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考えることができる	
	日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する（事象を数学化する）ことができる	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる（構想力）	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を様々な事象に活用することができる	
	数学の事象から問題を見いだすことができる		焦点化した問題を解決することについて、論理的に推論することができる（帰納、類推、演繹）	解決過程を振り返るなどして、数学的な見方・考え方のよさを見いだすことができる	
	数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる			解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる	
	数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる			解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる	
				解決過程を振り返るなどして、統一的・発展的に考えることができる	
	日常生活や社会問題を数学的にとらえた際に設けた条件等を説明することができる	問題解決の構想等を理解したり、その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる	数学における基本的な概念や原理・法則等の理解を基に、公式や定理等を用いて問題を解決することができる	得られた結果の数学的意味や別の方法で解決する方略等を見だし、説明することができる	数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりすることができる
	特定の場合に成り立つ性質が、一般の場合でも成り立つかを考え表現することができる	成り立つことが予測される数学的な事柄・事実を、数学的な表現を用いて説明することができる	問題場面上における数量関係を式に表すことができる	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりして統一的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる	目的にに応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる
	日常生活や社会問題について、条件を設定したり、数学の事象について、条件の設定を変更するなどして新たな数学の問題をつくらせることができる	命題が真であることを証明するための根拠となる数学的事実（公式や定理等）をとらえ、問題解決に向けた構想や見通しを立てることができる		得られた結果の意味を元の事象に戻してその意味を考えたり、条件を変更するなどとした場合にも同様に成り立つかを調べることができる	問題解決の過程を数学的な表現を適切に用いて説明することができる
数学の事象において数量の変化について実験して調べるなどして、新たな問題をつくらせることができる	命題の真偽を類推したり、ある命題を他の同値な命題に言い換えたりして数学的な問題の本質をとらえることができる		用いた解決方法を発展させ、他の日常生活や社会問題についての事象や数学の事象の解決に活用することができる	得られた結果の数学的意味をとらえ、それを数学的な表現を用いて適切に説明することができる	
<b>②新テストにおける記述式</b> 数式や問題解決の方略等の記述					
<b>③自由記述式</b> 証明など、数学的な問題解決のプロセスを表現する自由記述式					

大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」

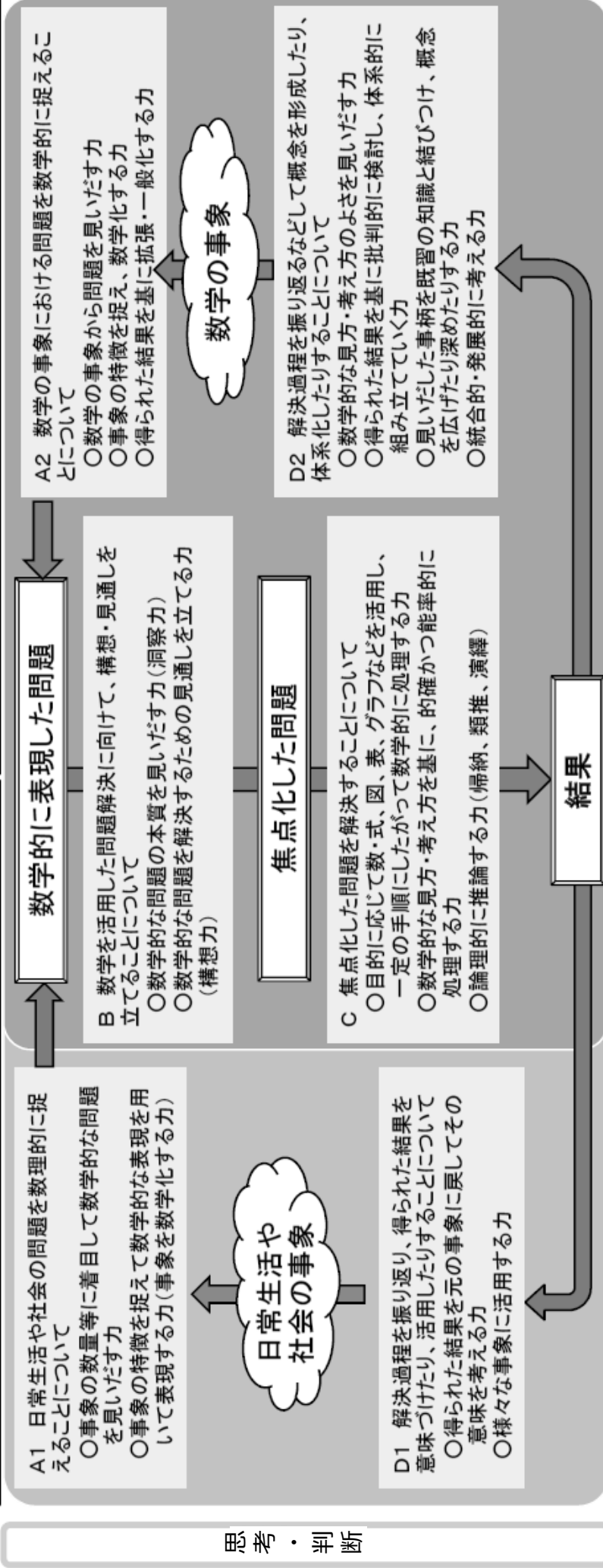
# 算数・数学の学習過程のイメージ

## 算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、  
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、  
問題を解決することができる。



思考・判断

表現

人間性

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づくわけではない

**E** 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて  
 ○数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力  
 ○目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

**F** 学習に向かう力、態度について  
 ○過程や結果を吟味し、評価・改善する態度  
 ○多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

### 参考2

平成28年12月21日 中央教育審議会  
 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より抜粋



# 【数学Ⅱ・数学B】

問題のねらい，主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

## 第1問 問題のねらい

数学における基本的な概念や性質について，数学的な見方・考え方を基に考察する問題である。中間を4題設定することで，数学Ⅱの学習内容を広く問えるように工夫している。

数学的な見方・考え方を働かせて，的確かつ能率的に処理したり，批判的に検討したりする力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
[1]	アイ	<b>「数学Ⅱ」</b> <b>(1) いろいろな式</b> イ 高次方程式 (ア) 複素数と二次方程式 <b>(2) 図形と方程式</b> ア 直線と円 (ア) 点と直線	数学的な問題解決に必要な知識	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	円と直線が2点で交わる条件を求め、その交点の座標について考察する。	67.1
	ウエオ					42.5
[2]	カ	<b>「数学Ⅱ」</b> <b>(3) 指数関数・対数関数</b> ア 指数関数 (ア) 指数の拡張 イ 対数関数 (ア) 対数	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に，的確かつ能率的に処理することができる。	指数・対数を含む式において，式を満たす $a$ の値の存在を判断する。	64.4
	キ					48.3
	ク					49.2
[3] (1)	ケ	<b>「数学Ⅱ」</b> <b>(4) 三角関数</b> イ 三角関数 (ア) 三角関数とそのグラフ	事象を数学化したり，数学的に解釈したり，表現・処理する技能	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	与えられた三角関数の式からグラフを考察する。	64.3
	コ					47.8
[3] (2)	サ		事象を数学化したり，数学的に解釈したり，表現・処理する技能	数学の事象から特徴をとらえ，数学化することができる。 数学的な問題の本質を見いだすことができる。(洞察力)	与えられた三角関数のグラフから式を読み取る。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	12.6
[4] (1)	シ	<b>「数学Ⅱ」</b> <b>(1) いろいろな式</b> ア 式と証明 (イ) 等式と不等式の証明	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解	解決過程を振り返るなどして，得られた結果を基に批判的に検討し，体系的に組み立てていくことができる。	相加平均と相乗平均の関係を利用して，式の最小値を求める問題の解決過程における誤りの理由を考察する。	61.8
[4] (2)	ス		数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	前問の考察を踏まえて正しい最小値を求める。	59.4

## 第2問 問題のねらい

定積分により定義された関数のグラフの増減から被積分関数のグラフの概形を考察する問題である。

微分・積分の基本的な性質や数学的な見方・考え方を基に見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり、深めたりする力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1) ア イ ウ	アイウ	<b>「数学Ⅱ」</b> <b>(5) 微分・積分の考え</b> ア 微分の考え (イ) 導関数の応用 イ 積分の考え (ア) 不定積分と定積分	数学的な問題解決に必要な知識	数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる。	三次関数のグラフの概形から関数を式で表し、定積分の性質を利用して定積分の値を求める。	73.4
	エ					54.6
	オカ					53.3
(1) キ ク ケ コ サ	キ, ク		数学的な問題解決に必要な知識	数学的な問題の本質を見いだすことができる。(洞察力)	定積分により定義された関数の増減を調べることで被積分関数の値の変化を考察する。	78.3
	ケ					25.5
	コ					30.8
	サ					40.7
(1) シ	シ		数学的な問題解決に必要な知識	解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる。	前問の考察を踏まえて被積分関数のグラフの概形を考察する。	50.2
(2) ス	ス		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる。 解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる。	定積分により定義された関数と被積分関数のグラフの関係について考察する。	20.9

第3問（選択率95.2%） 問題のねらい

ある薬を定期的に服用したときの有効成分の血中濃度について、漸化式を立てて一般項を求めて調べたり、得られた結果の意味を考察したりする問題である。

解決過程を振り返り、数学的に処理して得られた結果を元の事象に戻して意味付ける力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	ア	「数学B」 (2) 数列 イ 漸化式と数学的帰納法 (ア) 漸化式と数列	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだすことができる。	薬を12時間ごとに服用した場合の血中濃度を数列で表し、その数列の漸化式を立てる。	80.9
	イウエ					60.3
(1)	オカ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。(構想力)	得られた漸化式に対して二つの解法を考え一般項を求める。	38.2
	キク					58.9
	ケコ					48.8
	サシスセソ					37.2
(2)	タ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。	前問で求めた数列の一般項を利用して薬の効果について考察する。	21.1
(3)	チツ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる。	薬の服用間隔を24時間ごとに変えた場合に、血中濃度を表す数列がどのように変化するか考察する。	10.4
(4)	テ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を様々な事象に活用することができる。	前問の考察を踏まえて、薬の服用間隔と服用量の関係を考察する。	16.8
	ト					18.9

※第3問～第5問から2問を選択して解答

第4問（選択率98.6%） 問題のねらい

四面体について成り立つ空間図形の性質を，ベクトルを用いて論理的・発展的に考察する問題である。

得られた結果の意味を元の事象に戻して考えたり，ある性質が条件を変更した場合にも成り立つかを調べたりする力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
(1)	ア	「数学B」 (3) ベクトル イ 空間座標とベクトル	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	焦点化した問題を目的に応じて数・式，図，表，グラフなどを活用し，一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	空間内の二つのベクトルの内積の値を求める。	66.6
	イ					76.1
(2)	ウ		数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。（構想力）	空間内の2直線が垂直となる条件を，ベクトルを用いて表す。	56.9
(3)	エ		事象を数学化したたり，数学的に解釈したり，表現・処理する技能	焦点化した問題を解決することについて，論理的に推論することができる。（帰納，類推，演繹）	四面体の2辺の位置関係について，垂直となる十分条件を考察する。	45.0
(4)	オ，カ		数学的な問題解決に必要な知識	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる。（構想力）	特定の辺の長さが等しいような四面体において，2辺が垂直となることを証明する。	62.4
	キ					54.9
(5)	ク		数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	解決過程を振り返るなどして，見いだした事柄を既習の知識と結び付け，概念を広げたり深めたりすることができる。 数学の事象から特徴をとらえ，数学化することができる。	(4)の条件の中から必要でない条件を考察する。	28.0

※第3問～第5問から2問を選択して解答

第5問（選択率6.1%） 問題のねらい

袋詰め菓子の内容量についての確率分布を考え、母平均を推定したり、必要な標本の大きさについて考察したりする力を問う。

不確実な事象について、数学的根拠に基づいて批判的に検討したり、得られた結果の意味を考察したりする力を問う。

	解答記号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)	
			知識・技能	思考力・判断力・表現力			
(1)ア カ	アイウ	<b>「数学B」</b> (1) 確率分布と統計的な推測 ア 確率分布 (ア) 確率変数と確率分布 ウ 統計的な推測 (イ) 統計的な推測の考え	数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	与えられた確率変数 $X$ が近似的に正規分布に従うことを利用し、確率分布表を用いて確率を求める。	3.6	
	エオカ					4.9	
(1)キ	キ		事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考察することができる。	得られた確率を身近な事象の確率と比較する。	39.6	
(2)ク サ	クケコ		数学的な問題解決に必要な知識		日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる。	$X$ から作られた確率変数 $Y$ の平均と標準偏差を求め、 $X$ と $Y$ の確率の関係を考察する。	4.6
	サ						16.6
(2)シ	シ		数学的な問題解決に必要な知識	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる。	母平均の信頼度95%の信頼区間を求める。	33.9	
(2)ス	ス		数学的な問題解決に必要な知識	数学的な問題の本質を見いだすことができる。(洞察力)	信頼度を変更したときの信頼区間について考察する。	39.5	
(2)セ チ	セ		数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解	解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる。	信頼区間の幅を変更したいときの標本の大きさと信頼度について考察する。	16.3	
	ソタチ	1.2					

※第3問～第5問から2問を選択して解答

# 【数学】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

## 検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

	A	B	C	D	E
<b>①マーク式</b> 多肢選択式・穴埋め式	日常生活や社会の問題を数理的にとらえること 数学の事象における問題を数学的にとらえること	数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること	焦点化した問題を解決すること	解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすること	数学的な表現を用いて表現すること
	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる	数学的な問題の本質を見いだすことができる（洞察力）	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考えることができる	
	日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する（事象を数学化する）ことができる	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる（構想力）	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を様々な事象に活用することができる	
	数学の事象から問題を見いだすことができる		焦点化した問題を解決することについて、論理的に推論することができる（帰納、類推、演繹）	解決過程を振り返るなどして、数学的な見方・考え方のよさを見いだすことができる	
	数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる			解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる	
	数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる			解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる	
				解決過程を振り返るなどして、統一的・発展的に考えることができる	
	日常生活や社会問題を数学的にとらえた際に設けた条件等を説明することができる	問題解決の構想等を理解したり、その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる	数学における基本的な概念や原理・法則等の理解を基に、公式や定理等を用いて問題を解決することができる	得られた結果の数学的意味や別の方法で解決する方略等を見だし、説明することができる	数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりすることができる
	特定の場合に成り立つ性質が、一般の場合でも成り立つかを考え表現することができる	成り立つことが予測される数学的な事柄・事実を、数学的な表現を用いて説明することができる	問題場面上における数量関係を式に表すことができる	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりして統一的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる	目的にに応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる
	日常生活や社会問題について、条件を設定したり、数学の事象について、条件の設定を変更するなどして新たな数学の問題をつくらることができる	命題が真であることを証明するための根拠となる数学的事実（公式や定理等）をとらえ、問題解決に向けた構想や見通しを立てることができる		得られた結果の意味を元の事象に戻してその意味を考えたり、条件を変更するなどとした場合にも同様に成り立つかを調べることができる	問題解決の過程を数学的な表現を適切に用いて説明することができる
数学の事象において数量の変化について実験して調べるなどして、新たな問題をつくらことができる	命題の真偽を類推したり、ある命題を他の同値な命題に言い換えたりして数学的な問題の本質をとらえることができる		用いた解決方法を発展させ、他の日常生活や社会問題についての事象や数学の事象の解決に活用することができる	得られた結果の数学的意味をとらえ、それを数学的な表現を用いて適切に説明することができる	
<b>②新形式における記述式</b> 数式や問題解決の方略等の記述					
<b>③自由記述式</b> 証明など、数学的な問題解決のプロセスを表現する自由記述式					

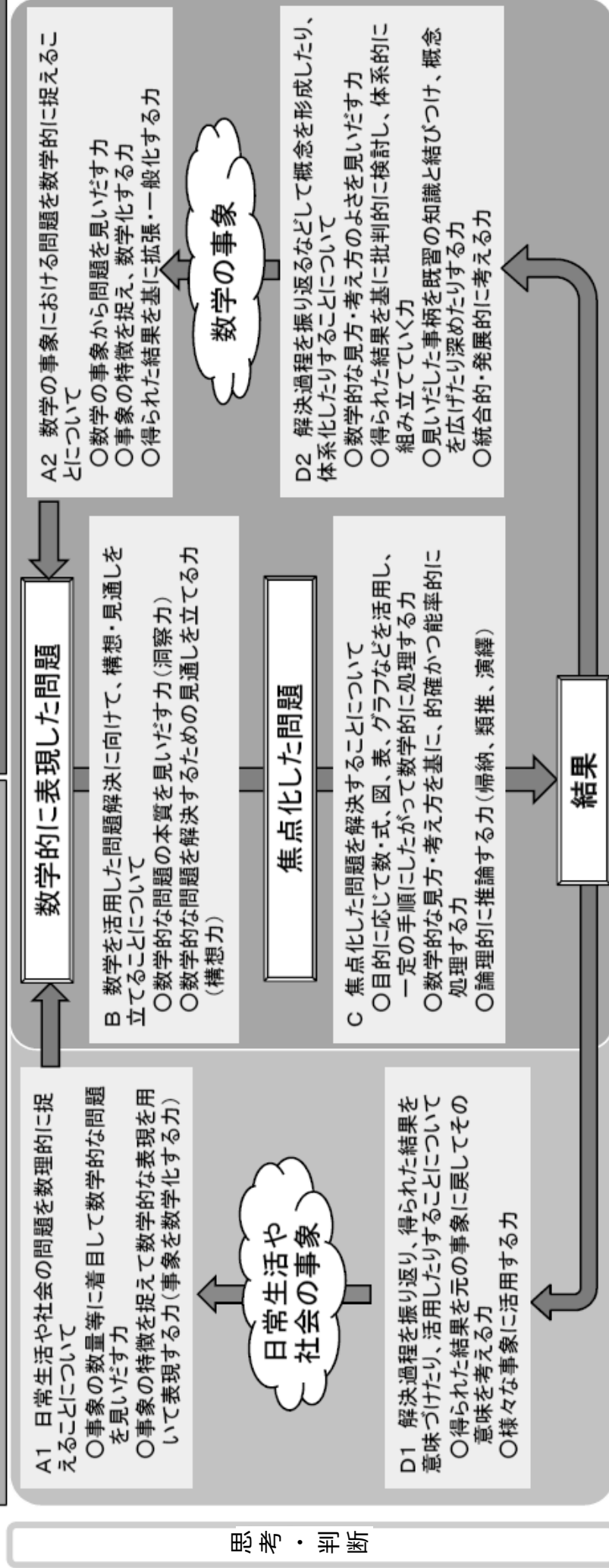
大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」

# 算数・数学の学習過程のイメージ

## 算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学の事象について統合的・発展的に考え、数学的に処理し、問題を解決することができる。



思考・判断

表現

人間性

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づくわけではない

**E** 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて  
 ○数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力  
 ○目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

**F** 学習に向かう力、態度について  
 ○過程や結果を吟味し、評価・改善する態度  
 ○多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

### 参考2

平成28年12月21日 中央教育審議会  
 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より抜粋





## 【世界史B】

問題のねらい、主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

### 第1問A 問題のねらい

日本の歴史を世界史的な視点から取り上げ、1世紀に中国から日本にもたらされた金印を題材に、日本を含む東アジア世界の形成過程について理解する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	(1) 世界史への扉 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり (2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界	古代の東アジアの状況についての理解		『後漢書』に関する記述についての資料を基に、古代東アジア世界の国際関係をとらえる。	33.0
問2 2	(2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界	東アジア世界の国際関係を表す冊封についての理解	複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる。(諸事象の比較)	国際関係や地方統治の特質をとらえ、該当する概念を示す。	62.6
問3 3	(1) 世界史への扉 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり	文字や記録の性質や変遷についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	資料から読み取った情報を基に、資料の持つ特性や資料に基づく歴史記述の特性を考察する。	72.5

### 第1問B 問題のねらい

フランク王国のクローヴィスの改宗をテーマとした文字資料を読み解いて、資料から得られた複数の情報を比較したり、文字資料と絵画資料を関連付けて考察したりすることで、クローヴィスの改宗の意味や意義について考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4 4	(3) 諸地域世界の交流と再編 イ ヨーロッパ世界の形成と展開	ゲルマン人諸国家についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	フランク王国について習得した知識と、初見の文字資料から読み解いた内容を結び付ける。	66.1
問5 5		中世ヨーロッパの政治や社会についての理解	複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる。(諸事象の比較)	文字資料の内容と絵画資料から得られる情報を比較したり関連付けたりして、文字資料の内容に即した絵画資料を示す。	76.3
問6 6		キリスト教世界の形成についての理解	複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる。(諸事象の比較)	ローマ帝国のキリスト教公認とフランク王国のキリスト教化との共通性について考察する。	48.2

第2問A 問題のねらい

世界の歴史における人の移動や移住の歴史について、小問のテーマに沿った資料についての会話文を基に、地図や統計資料から読み取れる情報と歴史的事象を関連付けて考察する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1 7	<p>(2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 エ 空間軸からみる諸地域世界</p> <p>(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本</p>	トルコ系諸王朝についての理解		提示された資料から、トルコ系の勢力が内陸アジアから西アジア・南アジアに進出したことをとらえる。	58.2
問2 8	<p>(3) 諸地域世界の交流と再編 エ 空間軸からみる諸地域世界</p> <p>(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成</p>	近世以降の人の移動についての理解	諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	資料から読み取った情報を基に、地域間の人の移動や交流について考察する。	26.4
問3 9	<p>(5) 地球世界の到来 ウ 米ソ冷戦と第三世界</p>	戦後のアジア太平洋地域についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	初見の資料から必要な情報を読み取った上で、オーストラリアの移民政策の転換の背景について考察する。	19.8

第2問B 問題のねらい

前4世紀から20世紀末までの長期にわたる中国人口の推計値のグラフを基に、人口動態の背景や影響について、多面的・多角的に考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4 10	(2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 (4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本	中国の農業や農法の特質とその変遷についての理解	背景, 原因, 結果, 影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	提示された中国の人口の変遷のグラフの中で, 人口が増加している時期について, その要因を考察する。	54.5
問5 11	(2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 (3) 諸地域世界の交流と再編 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界	中国の政治や経済の動きについての理解	背景, 原因, 結果, 影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	提示された中国の人口の変遷のグラフの中で, 人口が減少している時期について, その要因や対応を考察する。	48.7
問6 12	(3) 諸地域世界の交流と再編 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 (4) 諸地域世界の結合と変容 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本	世界史上の社会不安に関わる状況についての理解	歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して, 日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる。	資料から読み取った中国の人口減少の時期に起こった社会不安について調べるために必要な資料を示す。	50.6

### 第3問A 問題のねらい

18世紀後半にロシアで起こったプガチョフの乱を説明したリード文を基に、世界史上で起こった民衆反乱や革命に関わる絵画資料を読み取り、民衆の政治的な動きについての理解を踏まえ、歴史的事象の展開について考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	13	(4) 諸地域世界の結合と変容 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界	ロシアの皇帝の事績についての理解	/	ロシアの民衆反乱と関係した女帝とその事績について関連付けてとらえる。	64.2
問2	14	(4) 諸地域世界の結合と変容 ウ 産業社会と国民国家の形成	近代の民衆の政治的な動きについての理解	歴史的な事象を時系列的にとらえることができる。(時系列)	民衆反乱や革命に関わる絵画資料とそれに関する説明から、歴史的な事象を時系列的に位置付ける。	44.5
問3	15		19世紀のヨーロッパの文化についての理解	/	ヨーロッパの様々な文化を比較し、ロマン主義の特色をとらえる。	52.4

### 第3問B 問題のねらい

19世紀のアジア・アフリカで起こった民衆反乱やその指導者に関する複数の資料を基に、その背景を考察する力を問う。また、複数の資料に共通する内容を読み取り、19世紀のアジア・アフリカの民衆反乱の特色について考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4	16	(5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容	列強の進出を受けたアジアの状況についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的な事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	提示された資料から、民衆反乱が起こった地域を読み取り、歴史的な事象の背景を考察する。	24.0
問5	17		アフリカにおける民衆反乱についての理解	/	提示された資料から、民衆反乱が起こった地域を読み取り、その位置を地図上に示す。	47.3
問6	18	(4) 諸地域世界の結合と変容 オ 資料からよみとく歴史の世界 (5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容	近現代の政治思想についての理解	考察したことや構想した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる。	アジア・アフリカの民衆反乱や民衆運動を支えた政治思想の特色をまとめたものを特定する。	17.1

第4問A 問題のねらい

家系図とそれに関する会話文を基に、君主や最高指導者の地位の継承が歴史的事象にどのような影響を与えたのかを考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 19	<p>(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界</p>	資料から目的に応じた情報を読み取る技能	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	前近代の君主や最高指導者の地位の継承とそれに関する会話文を関連付けて、該当する家系図を示す。	73.1
問2 20	<p>(2) 諸地域世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編 イ ヨーロッパ世界の形成と展開</p>	世界史上の君主の地位やその継承についての理解	/	女性に関連した王位継承をめぐる争いの事例に当てはまる歴史的事象をとらえる。	53.5
問3 21	<p>(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大</p> <p>(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本</p>	イスラーム世界のカリフや宗派についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	正統カリフの継承図から読み取ったこととイスラーム教の宗派について関連付けて考察する。	45.4

**第4問B 問題のねらい**

19世紀のイギリスの労働者階級の食費の統計資料を基に、食物が世界の歴史に果たした役割について考察する力を問う。また、ヴィクトリア女王の家族の絵画を基に、当時のイギリスの社会の状況と家族観について考察する力を問う。

	解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問4	22	(1) 世界史への扉 ウ 日常生活にみる世界の歴史	食物が世界史に果たした役割についての理解	諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	提示された資料を基に、該当する食物を導き出した上で、その他の世界史上の食物や作物と比較して、その特色を考察する。	65.6
問5	23	(4) 諸地域世界の結合と変容 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界	19世紀のイギリスの貿易についての理解	/	提示された資料から、イギリスへの物産の輸入ルートを読み取り、地図上でとらえる。	29.7
問6	24	(1) 世界史への扉 ウ 日常生活にみる世界の歴史 (5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容	近代のイギリスの社会状況についての理解	考察したことや構想した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる。	絵画資料から読み取った情報と習得した知識を根拠に、ヴィクトリア女王時代のイギリス社会の状況と当時の家族観についてまとめたものを特定する。	52.6

**第5問A 問題のねらい**

第一次世界大戦に関連する複数の資料を読み取り、会話文中の内容と関連付けて、第一次世界大戦前後の歴史的事象の因果関係について考察する力を問う。また、地図や写真を基に、第一次世界大戦後の社会状況を考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 25	(4) 諸地域世界の結合と変容 オ 資料からよみとく歴史の世界 (5) 地球世界の到来 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現	第一次世界大戦の展開についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	提示された資料から、第一次世界大戦の勃発と終結に至る経緯について考察する。	49.7
問2 26	(5) 地球世界の到来 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現	ヨーロッパの国際情勢についての理解	歴史的事象を時系列的にとらえることができる。(時系列)	第一次世界大戦前後のヨーロッパの政治状況の理解を基に、ヨーロッパの国境の変遷について考察する。	57.0
問3 27		1920年代のアメリカ合衆国についての理解	背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	写真から読み取った情報と、第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の社会状況を関連付けて考察する。	77.7

**第5問B 問題のねらい**

第一次世界大戦中にイギリスが中東地域をめぐる行った外交に関する資料を読み解いて、イギリスの二重外交の結果として起こった歴史的事象について考察する力を問う。イギリスの二重外交について、どちらかの立場の資料の内容を選択して読み取り、次の問題で、その内容と関連して生じた歴史的な事象について解答する問題となっている。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4 (1) 28	(4) 諸地域世界の結合と変容 オ 資料からよみとく歴史の世界 (5) 地球世界の到来 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現	第一次世界大戦中のイギリスの中東外交についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	提示された資料から、イギリスとアラブ人勢力間の協定とイギリスがユダヤ人に対して行った宣言の内容を読み取り、複数の正答の中から一つを選ぶ。	79.1
問4 (2) 29		第一次世界大戦後の中東の動向についての理解		(1) で選択した解答に基づいて、その資料の内容と関連して生じた歴史的な事象の展開について考察する。	43.4
問5 30	(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界	古代に成立した諸宗教についての理解		西アジア・南アジア発祥の諸宗教と比較し、ユダヤ教の特色をとらえる。	81.1

第6問 問題のねらい

近代オリンピックに関連した課題研究をテーマに、オリンピックの参加選手数の増減と歴史的事象との関わりや、各年代のオリンピックと歴史的事象との因果関係を考察する力を問う。

	解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1	31	(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界	古代ギリシアの文化についての理解		古代の諸文明と比較して、古代ギリシアの文化の特徴をとらえる。	56.7
問2	32	(5) 地球世界の到来 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現	1930年代の経済や交通についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	オリンピックの参加選手数が減少している時期について多面的・多角的に考察し、複数の要因を特定する。	36.1
問3	33		第二次世界大戦に関連する国際情勢についての理解	複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる。(諸事象の比較)	グラフと風刺画から得られる情報を比較したり関連付けたりして、第二次世界大戦に関連する資料を示す。	49.3
問4	34	(4) 諸地域世界の結合と変容 ウ 産業社会と国民国家の形成 (5) 地球世界の到来 ウ 米ソ冷戦と第三世界	アメリカ合衆国における人種問題についての理解		アメリカ合衆国における奴隷制や黒人差別についての歴史的事象をとらえる。	70.7
問5	35	(5) 地球世界の到来 ウ 米ソ冷戦と第三世界	冷戦期の国際情勢についての理解		冷戦期に起こった歴史的事象について、その内容をとらえる。	62.0
問6	36	(4) 諸地域世界の結合と変容 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成 (5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容	世界史上の先住民についての理解		アメリカ・太平洋地域の先住民の歴史や文化について、その内容をとらえる。	57.1



# 【歴史】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

## 検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p><b>【考察・構想(注)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる</li> <li>● 歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想することができる</li> <li>・ 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる</li> </ul>	<p><b>【説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる</li> <li>・ 学習課題を振り返って結論をまとめることができる</li> <li>・ 結論について検証することができる</li> <li>・ 新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりすることができる</li> </ul> <p>○ 作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなど</li> </ul> <p>の活動を通して、現代につながる諸課題について自分の意見を形成する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりする活動を通して、新たな課題を見いだす場面</li> </ul>
資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる	考察したことや構想した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる
歴史的事象を時系列的にとらえることができる（時系列）	
資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる（推移や変化）	
複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる（諸事象の比較）	
諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる（事象相互のつながり）	
背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる（事象相互のつながり）	
歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる	
習得した歴史的概念を活用し、現代的課題に応用することができる	

(注) 構想については、社会科学科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○ 自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・ 歴史的事象を多面的・多角的に考察して、論理的・効果的に表現することができる
- ・ 歴史的事象について考察したことを踏まえて、課題の解決に向けた自分の意見を形成して、適切に表現することができる
- ・ 考察したことや構想したことから、新たな課題を見いだして追究することができる



# 【日本史B】

## 問題のねらい, 主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

### 第1問 問題のねらい

日本の前近代における会議や意思決定の在り方をテーマとして, 学習者の探究活動の場面を設定し, 資料に基づき各時代の特徴をとらえ, 歴史的事象の背景を考察する力を問う。また, 問1～問4の内容に基づき, 歴史上の出来事と現在との関係を考察する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)	
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力			
問1	1	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料	文字資料から目的に応じた情報を読み取る技能		歴史資料から古代の会議の特徴を示す情報を読み取る。	61.6
問2	2	(2) 中世の日本と東アジア イ 中世国家の形成	中世武家社会の特徴と御成敗式目についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	資料から評定衆の会議運営の特徴を見だし, その特徴を説明する際に, 用いるべき資料中の適切な文言の選択と選択した理由を示す。	69.6
問3	3		中世の惣村についての理解	背景, 原因, 結果, 影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	惣村の分析を通して, その構造をとらえ, 資料に基づき中世という時代を大きくとらえ, 惣村の特徴を推論する。	65.3
問4	4	(2) 中世の日本と東アジア ウ 中世社会の展開	戦国時代の自治都市についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	資料から情報を読み取り, 情報をまとめて自治都市の構造を概念的にとらえ, 模式図として示す。	52.9
問5	5		古代・中世における会議についての理解	複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる。(諸事象の比較)	問1～問4の内容に基づき, 古代・中世の会議や意思決定に関わる内容と現在の在り方とを比較し, 事象の継続性をとらえる。	39.6

第2問A 問題のねらい

邪馬台国に関して、複数の解釈に基づいた推論や資料からその時代の様々な人々の立場を読み解く力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	6	(1) 原始・古代の日本と東アジア イ 日本文化の黎明と古代国家の形成	古代国家が形成される過程についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	邪馬台国所在地論争の意味や意義について習得した知識を基に、近畿説の立場に立って歴史事象の推移を考察する。	79.0
問2	7		邪馬台国の社会構造についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	『魏志』倭人伝から、人物が置かれた立場を読み取り、当時の人々の考えを推論する。	68.4

第2問B 問題のねらい

日本の国号をテーマとして、複数の資料から情報を取り出し、情報を整理し、東アジア世界の国際関係を踏まえて事象の要因を考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問3	8	(1) 原始・古代の日本と東アジア イ 日本文化の黎明と古代国家の形成	6世紀の東アジア情勢の理解	背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	中国の資料に描かれた倭国使・百濟使の姿の差異性を見だし、6世紀前半の東アジアの国際関係に着目して、差異性が生じた理由を考察する。	52.4
問4	9	(1) 原始・古代の日本と東アジア ウ 古代国家の推移と社会の変化	浄土教信仰の特徴についての理解	/	仏教の展開過程を踏まえ、資料に象徴された仏教信仰と同様の性格を持つ文化財をとらえる。	30.4

第3問A 問題のねらい

荘園絵図を題材として、資料に基づいて歴史的事象を時系列的にとらえ、資料と歴史的事象の関わりを考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 10	(2) 中世の日本と東アジア イ 中世国家の形成	荘園制の展開についての理解	歴史的事象を時系列的にとらえることができる。(時系列)	下地中分の意味や意義を踏まえ、土地制度史の変遷という時系列的展開の中で歴史事象をとらえる。	36.0
問2 11		下地中分についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	資料から事象の特徴を読み取り、その特徴が表れた理由を資料に基づいて推論する。	48.7
問3 12	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料	図資料と文字資料から目的に応じた情報を読み取る技能		絵図資料から読み取れることと読み取れないことをとらえる。	59.7

第3問B 問題のねらい

仏堂を題材として、古代から近世にかけての長い時間軸で、仏教の社会的役割の変遷を踏まえ、歴史的事象の変化や推移をとらえる力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4 13	(1) 原始・古代の日本と東アジア イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化 (2) 中世の日本と東アジア イ 中世国家の形成 (3) 近世の日本と世界 イ 近世国家の形成	古代から近世にかけて、仏教が果たした社会的役割についての理解	背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	古代から近世にかけて仏堂の構造が変化する歴史的背景を、仏教の展開と社会的役割の変化を関連付けて考察する。	29.0

**第4問A 問題のねらい**

大名をテーマとして、近世大名と戦国大名を比較し、差異性をとらえたり、ある説を支持する立場から歴史的事象の展開を考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	14	(2) 中世の日本と東アジア ウ 中世社会の展開 (3) 近世の日本と世界 イ 近世国家の形成	戦国大名と近世大名の特徴についての理解	/	戦国大名と江戸時代の大名の比較を通して、両者の差異性をとらえる。	65.8
問2	15	(3) 近世の日本と世界 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容	近世大名の領国意識の変化についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	近世大名の意識が変化したことを仮説として、仮説に基づき近世大名と歴史的事象との関係を推論する。	49.4
問3	16		江戸時代の社会事象の推移と藩政改革についての理解	背景, 原因, 結果, 影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	近世の藩政改革について, 改革が必要となった背景と施策の内容を関連付ける。	37.2

**第4問B 問題のねらい**

今日の社会事象の遠因を近世の歴史的事象に求め、その事象が生じた歴史的背景を考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4	17	(3) 近世の日本と世界 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容	近世の流通体系についての理解	背景, 原因, 結果, 影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	今日の昆布消費量の地域的特徴が形成された理由を近世の流通や外交に求め、歴史的背景を考察する。	39.8

### 第5問A 問題のねらい

時代の転換をテーマとした学習過程を設定し、歴史事象の評価は必ずしも一義的に定まるのではなく多様な解釈が存在することを踏まえ、因果関係、事象の意味や意義を考察したり、根拠付けることができる力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力			
問1	18	(4) 近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立	ペリー来航前後の国際関係についての理解	諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	ペリー来航前後の歴史的事象の関係性について、日本国内の状況とアメリカの状況を踏まえて、多面的・多角的に考察する。	34.3
問2	19		日米修好通商条約についての理解	歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる。	日米修好通商条約締結時の幕府の対応について、異なる評価の根拠となる歴史的事象をとらえる。	43.4
問3	20・21		幕末期の国内情勢についての理解	歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる。	歴史の転換点となる事象の意義を考察し、時代の画期を判断し、その理由を示す。	44.2

### 第5問B 問題のねらい

立憲政治成立の過程を示す絵画資料を題材として、資料から情報を取り出したり、与えられた課題を解決するために必要な情報をとらえる力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4	22	(4) 近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立	資料から目的に応じた情報を読み取る技能	帝国議会が開設される過程を示した絵画資料から情報を読み取り、資料が示す主題をとらえる。	54.2
問5	23	(4) 近代日本の形成と世界 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開	歴史的事象の考察のために必要な資料を選択する技能		戦前期における選挙権の拡大を説明するという課題について、解決に向けた情報をとらえる。

### 第6問A 問題のねらい

製造工業生産額の増加に対する各工業の寄与率に関するグラフを題材として、長い時間軸で近代日本の産業構造の特徴を見いだしたり、グラフから読み取ったある時期の国内産業の特徴と貿易との関係性を考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	24	(4) 近代日本の形成と世界 ウ 近代産業の発展と近代文化 (5) 両世界大戦期の日本と世界 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本	近代日本の代表的産業の推移についての理解	資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる。(推移や変化)	グラフから各工業の寄与率の変化の特徴をとらえ、長い時間軸で近代日本の産業構造の推移や変化を考察する。	48.1
問2	25	(4) 近代日本の形成と世界 ウ 近代産業の発展と近代文化	産業革命期における産業と貿易の特徴についての理解	背景, 原因, 結果, 影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる。(事象相互のつながり)	グラフから読み取った情報と国内産業や海外との貿易に関する歴史的事象とを関連付ける。	31.3
問3	26	(5) 両世界大戦期の日本と世界 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本	戦時期における産業構造の特徴についての理解	資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる。	グラフから産業構造の変化をとらえ、当該期の経済政策の特徴を、資料に基づいてとらえる。	38.6

### 第6問B 問題のねらい

戦時期の文化と国民生活について、歴史的事象の背景を複合的にとらえ、多面的・多角的に考察する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4	27	(5) 両世界大戦期の日本と世界 ウ 第二次世界大戦と日本	戦時期の社会についての理解	歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる。	作品解説を手がかりに、美術作品の特徴をとらえ、作品が描かれた時期と社会背景について多面的・多角的に考察する。	45.2
問5	28		終戦直後の各地の様相についての理解	/	敗戦直後に日本人が置かれた状況とその事象が起こった地域をとらえる。	79.3



第6問C 問題のねらい

1955年を戦後の一つの画期としてとらえ、政治、経済、社会などを多面的・多角的にとらえる力を問う。

	解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問6	29	(6) 現代の日本と世界 イ 経済の発展と国民生活の変 化	高度経済成長 と貿易の特徴 についての理 解		戦後経済の特徴を歴史の 推移の中でとらえる。	21.0
問7	30		1955年に展開 した政治・外 交分野につい ての理解		戦後期の政治・外交につ いて、歴史事象の内容をと らえる。	25.6
問8	31		貿易の自由化 が進む国際社 会と日本との 関係について の理解	諸地域世界の接触や交流 などが歴史的事象にどのよ うに作用したのかを明らか にすることができる。(事 象相互のつながり)	統計表を基に戦後の食料 自給率の推移を、貿易の自 由化と関連付け、時系列的 にとらえ、その要因を考察 する。	65.3

# 【歴史】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

## 検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p><b>【考察・構想(注)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる</li> <li>● 歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想することができる</li> <li>・ 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる</li> </ul>	<p><b>【説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 考察したことを構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる</li> <li>・ 学習課題を振り返って結論をまとめることができる</li> <li>・ 結論について検証することができる</li> <li>・ 新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりすることができる</li> </ul> <p>○ 作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなど</li> </ul> <p>の活動を通して、現代につながる諸課題について自分の意見を形成する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりする活動を通して、新たな課題を見いだす場面</li> </ul>
<p>資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる</p>	<p>考察したことや構想した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる</p>
<p>歴史的事象を時系列的にとらえることができる（時系列）</p>	
<p>資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる（推移や変化）</p>	
<p>複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる（諸事象の比較）</p>	
<p>諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる（事象相互のつながり）</p>	
<p>背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる（事象相互のつながり）</p>	
<p>歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる</p>	
<p>習得した歴史的概念を活用し、現代的課題に応用することができる</p>	

(注) 構想については、社会科学科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○ 自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・ 歴史的事象を多面的・多角的に考察して、論理的・効果的に表現することができる
- ・ 歴史的事象について考察したことを踏まえて、課題の解決に向けた自分の意見を形成して、適切に表現することができる
- ・ 考察したことを構想したことから、新たな課題を見いだして追究することができる

## 【地理B】

問題のねらい，主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

### 第1問A 問題のねらい

低緯度帯の気候をテーマとして，諸事象の相互関係をとらえ，気候と植生や景観との関係など，自然現象の分布や位置の規則性を見いだす力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	(2) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境	貿易風の風向についての理解		熱帯収束帯で南北から収束する貿易風の風向をとらえる。	40.0
問2		熱帯収束帯と周辺部の自然現象についての理解	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる。	主題図を基に，熱帯収束帯が熱帯地域，周辺地域に与える影響について考察する。	35.8
問3		熱帯収束帯と気候についての理解	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。	主題図と表から情報を読み取り，熱帯収束帯の移動，各河川の流域，降水量についての情報を関連付け，気候帯と事象との関係性について考察する。	28.3
問4		気候と植生についての理解	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。	景観写真から情報を読み取り，景観と気候との関係性を考察する。	28.5

### 第1問B 問題のねらい

火山活動や自然災害をテーマとして，自然が人間生活にもたらす影響をとらえ，自然環境と人間生活との関係を考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問5	(2) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境	火山活動に伴う諸事象についての理解		火山活動に伴う現象が人間生活にもたらす影響をとらえる。	64.4
問6		各種災害の到達範囲と地形条件の関係についての理解	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。	地形図から情報を読み取り，災害が発生した場合の被災範囲を類推する。	86.3

## 第2問 問題のねらい

世界の食料問題をテーマとして、多様な資料から情報を取り出し、一つの地域にのみ見られる特色と、他の地域との共通性とを見いだすことによって、指標を基に各国の状況を比較し、多様性が生まれる要因を考察する力を問う。授業での探究の場面を設定し、現代世界の諸課題を意識できるよう工夫している。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 7	(2) 現代世界の系統地理的考察 イ 資源, 産業	世界の食料問題と人口問題における各地域の特色についての理解	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。	統計表と主題図から読み取った情報を統合し、栄養不足人口率、穀物自給率と人口増加率との関係性を考察する。	※
問2 8		主要作物の生産地についての理解	/	世界の主な作物の生産国についてとらえる。	78.6
問3 9		現代世界の農業の現状についての理解	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。	散布図から情報を読み取り、農地面積と肥料の消費量の関係から、世界の地域別特徴をとらえる。	32.6
問4 10		主要作物の生産量と輸出量の関係についての理解	地域的特色について多面的・多角的に考察することができる。	統計表とグラフから読み取った情報を基に、米と大豆の流通の特徴についてとらえ、その用途の変化について考察する。	64.7
問5 11		先進国と発展途上国の食料問題についての理解	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる。	飽食・飢餓と健康に関する統計表から読み取った情報を、各国の特徴と結び付け、その特徴に基づき類型化して示す。	72.3
問6 12		世界の食料問題と解決策についての理解	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる。	問2～問5の内容を踏まえ、世界の食料問題とその解決に向けた取り組みを示す。	81.8

※問題文中の図に誤りがあったため、集計の対象外とする。

### 第3問 問題のねらい

世界の人口と都市をテーマとして、地域を世界的レベル、国家的レベル、都市的レベルといった様々なスケールでとらえ、人口と都市に関する諸事象を比較し、その時間的推移・空間的変容から各地域の特色を考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	(2) 現代世界の系統地理的考察 ウ 人口、都市・村落	資料から目的に応じた情報を読み取る技能		人口に関するカルトグラムから各地域の特徴をとらえる。	87.1
問2		国家の経済状態と人口ピラミッドの関係についての理解	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。	人口ピラミッドから読み取った情報と各国の経済的特徴に関して習得した知識とを関連付け、人口構造の特徴について考察する。	45.2
問3		国家の経済状態と人口増加率の関係についての理解	地域的特色について多面的・多角的に考察することができる。	統計表から読み取った合計特殊出生率と一人当たりのGDPのデータを関連付け、各国の特徴について考察する。	52.3
問4		都市の機能、居住問題についての理解	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。	景観写真を読み取り、各都市の特徴をとらえ、景観が形成された要因について考察する。	35.2
問5		都市内部の機能と構造についての理解	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる。	大都市の内部構造を示す模式図を基に、同心円状に分布する各地区の機能について考察する。	50.3
問6		都市の機能についての理解	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる。	統計表から昼夜間人口比率と年間商品販売額に関する情報を読み取り、読み取った情報を関連付け、日本の中規模都市の機能について考察する。	29.8

**第4問 問題のねらい**

ヨーロッパ地域を対象として、資料から取り出した情報を基に、ヨーロッパという州規模地域の特色を多様な事象の分析から考察し、仮説を立て検証に必要な情報を推測する力を問う。課題探究の場面を設定し、多面的・多角的に考察できるよう工夫している。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	19	(3) 現代世界の地誌的考察 ア 現代世界の地域区分 イ 現代世界の諸地域	ヨーロッパにおける気候区分についての理解	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる。	ハイサーグラフから読み取った気候の情報と都市の位置を関連付けて考察する。	66.6
問2	20		ヨーロッパの農業についての理解	事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる。	景観写真から読み取った農業の特徴と地図上の場所を関連付けて考察する。	47.6
問3	21		ヨーロッパの言語と宗教の分布についての理解	/	ヨーロッパにおける宗教と言語の多様性と分布をとらえる。	30.3
問4	22		ヨーロッパの統合とEUについての理解	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。	EUの統合が進んだ理由について、四つの観点から考察する。	46.5
問5	23		EU加盟国の経済状態についての理解	地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる。	散布図からEUへの拠出金額と1人当たりGNIの相関について分析し、EU加盟国の特徴について考察する。	70.8
問6	24		ヨーロッパの人口移動についての理解	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる。	EU諸国の国際的な人口移動に関する仮説を立証するために必要な資料を示す。	55.0

### 第5問 問題のねらい

生活圏の地域調査に関して、異なる種類の資料から取り出した情報を統合し、地域の特徴や課題を考察したり、自然災害への備えや対応に着目し、地域の諸課題について考察する力を問う。一つの地域が抱える課題を日本の地理的な諸課題へ一般化する探究過程を示すよう工夫している。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 25	(1) 様々な地図と地理的技能 ア 地理情報と地図	資料から目的に応じた情報を読み取る技能		地形図から情報を読み取り、観察される景観をとらえる。	17.2
問2 26	(1) 様々な地図と地理的技能 イ 地図の活用と地域調査	日本の気候についての理解	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。	各地の月平均気温のグラフから読み取った情報と各地点の特徴から、避寒地として機能した要因について考察する。	40.5
問3 27		日本の人口問題、都市・居住問題についての理解	事象について位置や分布などからとらえ考察することができる。	メッシュマップから情報を読み取り、対象地域の人口分布と産業や人口構造との関係について考察する。	57.1
問4 28		開発に伴う災害と防災についての理解	地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる。	防災施設の写真と立地から、設置された目的や役割を考察する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	22.1
問5 29		開発に伴う災害と防災についての理解	地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想(選択・判断)することができる。	地形図・地形分類図・景観写真から読み取った情報を関連付けて、対象地域の災害の危険性と防災に関する課題について考察する。	35.2
問6 30		(1) 様々な地図と地理的技能 イ 地図の活用と地域調査 (3) 現代世界の地誌的考察 ウ 現代世界と日本	日本の自然の特徴と人間生活についての理解	地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる。	問4、問5を関連付け、日本の自然災害と防災対策についてとらえる。

# 【地理】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p><b>【考察・構想(注)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することができる</li> <li>●地理的な課題を把握し、その解決に向けて構想することができる</li> <li>●複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる</li> </ul>	<p><b>【説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる</li> <li>●学習課題を振り返って結論をまとめることができる</li> <li>●結論について検証することができる</li> <li>●新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる</li> </ul> <p>○作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な課題を探究する活動を通して、その解決や持続可能な将来の在り方を展望する場面</li> <li>・資料から地理的事象を読み取り、地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や課題について説明したりする場面</li> <li>・新たな発見や理解の深化を見いだし、改めて課題を設定し、情報の収集、整理・分析を行っていく場面</li> </ul>
<p>事象について位置や分布などからとらえ考察することができる</p>	<p>地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる</p>
<p>事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる</p>	
<p>地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる</p>	
<p>地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる</p>	
<p>地域的特色について多面的・多角的に考察することができる</p>	
<p>地理的な課題について多面的・多角的に考察し、解決策を合理的に構想（選択・判断）することができる</p>	

(注) 構想については、社会科学科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・主題図などの資料を、適切に作成することができる
- ・地理的事象を多面的・多角的に考察し、構想した結果、地域調査や諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
- ・現代世界の地理的な課題の解決について、自らの解釈も加えて意見を形成し、適切に表現することができる
- ・課題に対して、具体的な解決策を提言することができる



## 【現代社会】

### 問題のねらい、主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

#### 第1問 問題のねらい

「功利主義」や「正義論」に関して要約した文書を資料として示し、それぞれの基盤となる考え方についての理解や、その考え方が実際の政策や制度にどう反映されているかについて考察する力を問うとともに、選択肢として与えられた命題について、合理的な「推論」かどうか判断する力を問う。

（年度当初に行われる授業の場面を設定）

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	(1) 私たちの生きる社会	「功利主義」の考え方についての理解		資料を基に、そこで示された「功利主義」の思想的な特徴をとらえ、基本となる考え方を示す。	53.8
問2		「正義論」の考え方についての理解		資料を基に、そこで示された「正義論」の思想的な特徴をとらえ、基本となる考え方を示す。	43.2
問3		問1の資料から得た「功利主義」の考え方についての理解	概念や理論を活用し、制度や政策の本質や日常生活に見られる人々の行為の意味をとらえることができる。	二つの資料から読み取れる考え方を基に、現実社会の制度や政策を考察し、それぞれの考え方が実際に反映されている制度や政策をとらえる。	34.4
		問2の資料から得た「正義論」の考え方についての理解			58.7
問4		設問で示された「推論」の定義の理解	社会的事象等をとらえる概念や理論を活用し、原因と結果の関連性について考察することができる。	「推論」の定義を基に、選択肢で示された社会的事象に関する命題について、前提と結論との関係が妥当かどうかを考察する。	66.5

## 第2問 問題のねらい

青年期と自己の形成の課題について、アイデンティティや防衛機制に関する概念や理論等を活用して、進路決定や日常生活の葛藤について考察する力を問うとともに、日本及び世界の宗教や文化をとらえる上で大切な知識や考え方についての理解を問う。

(夏休みの課題として複数のテーマについて調べる場面を設定)

	解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1	6	(2) 現代社会と人間としての 在り方生き方 ア 青年期と自己の形成	資料で示された 心理学者のマー シャの考え方について の理解	概念や理論を活用し、制 度や政策の本質や日常生活 に見られる人々の行為の意 味をとらえることができる。	資料で示されたマーシャ の考え方を基に、選択肢で 示されたアイデンティティ の状態を分類する。	86.4
問2	7		「防衛機制」の 理解	概念や理論を活用し、制 度や政策の本質や日常生活 に見られる人々の行為の意 味をとらえることができる。	日常生活で「葛藤」を感 じたときに、対処する「防 衛機制」の種類をとらえる。	75.3
問3	8		日本の伝統や文 化を考える上で 重要となる概念 についての理解		日本の各時代に生じた宗 教や文化の特徴をとらえる。	66.7
問4	9		ユダヤ教・キリ スト教・イスラ ム教の関係につ いての理解		資料で示された『デカメ ロン』の中の「三つの指 輪」(要約)を読み、その 主旨をとらえる。	80.2

### 第3問 問題のねらい

市場メカニズム等の経済の基本的な概念や理論に関する知識と、第二次世界大戦後の消費支出や外国為替相場に関する諸資料等を活用し、具体的な経済現象等について考察する力を問う。

(生徒同士が授業で会話したり議論したりする場面を設定)

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力			
問1	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場経済での価格メカニズムの理解</li> <li>インフレーション・デフレーションの理解</li> </ul>	社会的事象等をとらえる概念や理論を活用し、原因と結果の関連性について考察することができる。	江戸時代の小判改鋳を基に、経済に関する基本的な概念や理論を活用し、貨幣改鋳の経済的な効果について考察する。	35.6	
問2	11	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問で示されたエンゲル係数の理解</li> <li>グラフから情報を読み取る技能</li> </ul>	社会的事象等をとらえる概念や理論を活用し、原因と結果の関連性について考察することができる。	設問で示されたエンゲル係数に関する知識を活用し、グラフに見られるその推移の原因や理由、検証方法について考察する。	44.2
問3	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場メカニズムについての理解</li> <li>需要供給曲線についての理解</li> </ul>	社会的事象等をとらえる概念や理論を活用し、他の社会的事象等をとらえることができる。	需要供給曲線を活用し、金融市場の変化をとらえる。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	16.7	
問4	13	(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方 オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>円高・円安とその影響についての理解</li> <li>グラフから情報を読み取る技能</li> </ul>	社会的事象等をとらえる概念や理論を活用し、原因と結果の関連性について考察することができる。	グラフを基に、円の対米ドル為替レートの推移を読み取るとともに、需要と供給の関係から、為替レート変動の影響や理由について考察する。	42.4
問5	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題の「市場化」の概念の理解</li> <li>環境問題への対応についての理解</li> </ul>	/	環境問題に関する知識を基に、地球温暖化防止の経済的な手法についてとらえる。	37.1	

#### 第4問 問題のねらい

政治に関わる身近な課題について、政治制度を理解する上で重要な知識、概念及び理論の理解を問うとともに、成年年齢の引下げをめぐる議論について取り上げ、諸資料を活用し、様々な立場から考察し理由や根拠を示す力を問う。

(1年間の授業の復習として生徒が教師とともに問題を作成する学習場面を設定)

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1 15	(2) 現代社会と人間としての 在り方生き方 イ 現代の民主政治と政治参加 の意義	両議院の選挙制 度の違いについ ての理解		衆議院と参議院の選挙に おける有効となる投票方法 をとらえる。(当てはまる 選択肢を全て選択させる問 題)	4.6
問2 16		個人と国家の関 係等について説 いた思想家の著 書と思想内容の 理解		民主政治における個人と 国家、国家間の関係などに 関する先哲の思想の内容を とらえる。	51.2
問3 17	(2) 現代社会と人間としての 在り方生き方 オ 国際社会の動向と日本の果 たすべき役割	第二次世界大戦 後の国際政治に おいて節目と なった出来事 についての理解		第二次世界大戦後の国際 政治の動向に大きな影響を 及ぼした出来事を発生順に 並べ替える。	74.1
問4 18	(2) 現代社会と人間としての 在り方生き方 ア 青年期と自己の形成 イ 現代の民主政治と政治参加 の意義 ウ 個人の尊重と法の支配	・民法における 成年年齢の理解 ・資料から情報 を読みとる技能	社会的事象等を多面的・ 多角的に考察し、課題の解 決に向けて、公正に判断す ることができる。 社会的事象等を多面的・ 多角的に考察した過程や結 果を、理由や根拠に基づい てまとめることができる。	世論調査の結果等をまと めた資料を基に、民法に定 める成年年齢の引下げをめ ぐる議論について賛成・反 対の立場に立って考察し、 前提となる事実と主張の理 由・根拠を示す資料を特定 する。	44.9

## 第5問 問題のねらい

大学の法学基礎ゼミナールの授業場面を設定し、学生がまとめた文章に示された日本国憲法や日本の司法制度に関する知識についての理解を問うとともに、裁判員制度に関する学生同士の議論で展開された賛成・反対の主張とそれぞれの根拠を考察する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)	
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力			
問1	19	実際の政治制度 の中の権力分立 についての理解		三権分立の理念がどのよ うに実際の政治制度に反映 されているかをとらえる。	51.7	
問2	20	(2) 現代社会と人間としての 在り方生き方 イ 現代の民主政治と政治参加 の意義	・法人の概念に ついての理解 ・日本国憲法で 規定されている 人権についての 理解	社会的事象等をとらえる いくつかの「考え方」に基 づいて内容を考察し、関連 性や社会的な意味をとらえ ることができる。	人権が保障される主体に 関する考え方を活用し、日 本国憲法で法人に保障され る人権をとらえる。	67.5
問3	21	国と地方自治体 の行政機関に関 する理解		日本の政治制度の中での 行政機関の仕組みをとらえ る。	47.6	
問4	22	(2) 現代社会と人間としての 在り方生き方 ウ 個人の尊重と法の支配	・憲法14条1項 についての理解 ・違憲審査権と その判例につい ての理解		三権分立を考える上で重 要な裁判所の違憲審査に関 する判例についてとらえる。	19.8
問5	23	裁判員制度につ いての理解		様々な立場からの主張 を、根拠に基づいて多面 的・多角的に考察し、課題 の解決に向けて、公正に判 断することができる。	裁判員制度に関する学生 の議論を読み、それぞれの 学生の主張の根拠を考察 し、各発言が賛成・反対の どちらの立場に立つものか を判断する。	74.9

# 【現代社会】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p><b>【考察・構想(注)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる</li> <li>●現代社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想することができる</li> <li>・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる</li> </ul>	<p><b>【説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる</li> <li>・学習課題を振り返って結論をまとめることができる</li> <li>・結論について検証することができる</li> <li>・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる</li> </ul> <p>○作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的現象等を多面的・多角的に考察する学習活動を通じて、現代社会の課題について自分の意見を形成しようとする場面</li> <li>・資料を概念や理論を用いて考察し、その成果から問いを見いだす場面</li> </ul>
<p>社会的現象等をとらえるいくつかの「考え方」に基づいて内容を考察し、関連性や社会的な意味をとらえることができる</p>	<p>社会的現象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる</p>
<p>概念や理論を活用し、制度や政策の本質や日常生活に見られる人々の行為の意味をとらえることができる</p>	
<p>社会的現象等をとらえる概念や理論を活用し、他の社会的現象等をとらえることができる</p>	
<p>社会的現象等をとらえる概念や理論を活用し、原因と結果の関連性について考察することができる</p>	
<p>社会的現象等を多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて、公正に判断することができる</p>	
<p>様々な立場からの主張を、根拠に基づいて多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて、公正に判断することができる</p>	

(注) 構想については、社会科学科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・社会的現象等を考察するにあたって、自ら課題設定し、適切な資料や方法を用いて考察することができる
- ・社会的現象等を多面的・多角的に考察し、自らが構想した過程や結果を諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
- ・社会的現象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を踏まえ、課題解決に向けて自分の意見を形成して、適切に表現することができる
- ・考察したことや構想したことから、新たな課題を見いだすことができる

【物理】

問題のねらい、主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

第1問 問題のねらい

物理的な事物・現象に関する原理・法則についての理解を基に、力学、電磁気、波動、原子物理等を題材として、データや実験結果を適切に取り扱って解釈する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1	1・2  (1) 様々な運動 ア 平面内の運動と剛体の つり合い (ア) 曲線運動の速度と加 速度  【物理基礎】 (1) 物体の運動とエネル ギー イ 様々な力とその働き (ア) 様々な力	運動エネルギー、 摩擦についての理 解	自然の事物・現象に係 る数的処理を一定の条件 で行い、その結果を基 に、原理・法則に従って 考察することができる。	水平な粗い面上をすべる物体 について、運動エネルギーと摩 擦力による仕事との基本的関係 に関する理解を基に、停止する までの距離を考察する。	35.8
問2	3  (3) 電気と磁気 イ 電流と磁界 (ウ) 電磁誘導	電磁誘導、オーム の法則、ジュール 熱についての理 解	自然の事物・現象に係 る数的処理を一定の条件 で行い、その結果を基 に、原理・法則に従って 考察することができる。	手回し発電機について、電磁 誘導、オームの法則、ジュール 熱等に関する理解を基に、ハン ドルを回転させたときの現象に ついて考察する。	10.1
問3	4  (2) 波 ウ 光 (ア) 光の伝わり方	光の全反射につ いての理解	自然の事物・現象に係 る数的処理を一定の条件 で行い、その結果を基 に、原理・法則に従って 考察することができる。	光の全反射について、光の伝 わり方に関する理解を基に、与 えられた条件に従って考察す る。	42.2
問4	5  (2) 波 ア 波の伝わり方 (イ) 波の干渉と回折  【物理基礎】 (2) 様々な物理現象とエネ ルギーの利用 イ 波 (イ) 音と振動	気柱の共鳴につ いての理解	自然の事物・現象に係 る数的処理を一定の条件 で行い、その結果を基 に、原理・法則に従って 考察することができる。	気柱の共鳴について、定常波 に関する理解を基に、原理に 従って振動数と波長について考 察する。	41.9
問5	6  (4) 原子 ウ 物理学が築く未来 (ア) 物理学が築く未来  【物理基礎】 (2) 様々な物理現象とエネ ルギーの利用 エ エネルギーとその利用 (ア) エネルギーとその利 用	エネルギーの変 換についての理 解	自然の事物・現象に係 る数的処理を一定の条件 で行い、その結果を基 に、原理・法則に従って 考察することができる。	水力発電所を題材に、得られ た電力について、エネルギーの 変換に関する理解を基に、重力 による位置エネルギーが電気エ ネルギーに変換される際の効率 を求める。	62.2
問6	7  (4) 原子 イ 原子と原子核 (ア) 原子とスペクトル	原子模型につ いての理解	自然の事物・現象に係 る新たに得た情報と、結 果などから得た情報を、 原理・法則に従って統合 することができる。	金の原子核について、原子の 構造などの理解を基に、入射し た $\alpha$ 粒子の散乱の様子（ラザ フォード散乱）を示している図 を特定する。	49.3

## 第2問 問題のねらい

ひもやばねにつるされた物体に見られる周期運動についての理解を基に，小学校における学習で取り扱った振り子の実験を題材として，新たな情報を比較・分析したり統合したりすることで考察・判断するなど，課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	(1) 様々な運動 ウ 円運動と単振動 (イ) 単振動	単振り子の周期についての理解	自然の事物・現象に係る情報を検証し，設定する条件などについて，原理・法則に従い判断することができる。	単振動について，ブランコを題材にして，物体の様子を表す方法やその物体に働く力などに関する理解を基に，周期を変える方法を考察する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題・解なしの選択肢を含む問題)	21.3
問2		振り子の実験についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを，原理・法則に従って比較分析することができる。	振り子の周期について，与えられた情報を基に，振動の端で測定したときと，中心で測定したときのそれぞれの測定結果に関して考察する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題・解なしの選択肢を含む問題)	74.5
問3		振り子の実験についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を基に，見いだした課題について，原理・法則に従って推論することができる。	振り子の振れ始めの角度と周期の関係について，複数の実験結果を比較・分析し，整合性に関して考察する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題・解なしの選択肢を含む問題)	17.0
問4		グラフを用いたデータ解析についての技能	自然の事物・現象に係る値について，原理・法則に従って処理し，グラフ等を活用して分析することができる。	振り子の実験結果のグラフを描くことについて，物理学的に探究する過程で身に付けた方法を活用して，縦軸と横軸に取る変数の組合せを特定する。	30.9
問5		力学についての理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い，その結果を基に，原理・法則に従って考察することができる。	振り子の実験について，物体に働く力などに関する理解を基に，振り子が端から反対の端まで振れる間，張力はどのように変化するのか考察する。	56.6



第3問A・B 問題のねらい

平面内を運動する物体の運動についての理解と、物理基礎で学習した運動・位置エネルギーや熱現象とエネルギーの関係に関する理解を基に、自動車を題材として、資料に示された条件を解釈し、グラフを活用・分析したり情報を統合したりするなど、課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	1・2・3	曲線運動や円運動などについての理解	図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる。	自動車の運動を題材として、曲線運動の速度と加速度や円運動に関する理解を基に、設定条件を読み取り、円弧状道路を進むのに要する最小時間及び向心加速度を求める。	30.0
	4・5・6				(1) 様々な運動 ア 平面内の運動と剛体のつり合い (ア) 曲線運動の速度と加速度 ウ 円運動と単振動 (ア) 円運動
問2	7・8・9	力学についての理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる。	自動車の運動を題材として、平面内を運動する物体に関する理解を基に、設定条件を読み取り、減速開始位置を求める。	10.3
問3	10	向心加速度などについての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる。	自動車の運動を題材として、円運動や力の合成に関する理解を基に、等速でない円運動の加速度の向きを特定する。	24.3
問4	11	比熱容量、原子量についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる。	ブレーキに用いられる金属について、複数の金属に関するデータを基に、方眼紙を用い、比熱容量と原子量の関係进行分析・解釈する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題・解なしの選択肢を含む問題)	12.5
問5	12・13	【物理基礎】 (1) 物体の運動とエネルギー ウ 力学的エネルギー (ア) 運動エネルギーと位置エネルギー	自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる。	ブレーキの鉄でできた部品について、熱と仕事の変換に関する理解を基に、描いたグラフを用いるなどして、設定条件における鉄の質量を求める。	2.5
問6	14	(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 ア 熱 (イ) 熱の利用	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる。	自動車が減速するときに失われる運動エネルギーの有効利用について、熱の移動や熱と仕事の変換に関する理解を基に、物理法則との整合性を考察する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題・解なしの選択肢を含む問題)	55.0

第4問 問題のねらい

電磁誘導と交流に関する現象や法則についての理解を基に、磁界中で回転するコイルに生じる誘導起電力を題材として、原理・法則に従ってグラフを作成し、法則を活用することにより課題を解決する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	1	(3) 電気と磁気 イ 電流と磁界 (ウ) 電磁誘導	誘導起電力についての理解	自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる。	電位の変化について、磁場中で回転するコイルに発生する誘導起電力を表すグラフを特定する。	14.6
	2					39.7
問2	3・4・5			自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる。	磁場中で回転するコイルに発生する誘導起電力について、電磁誘導と交流に関する現象や法則の理解を基に、値を求める。	7.3

# 【理科】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

科学的な自然観を育成するための各領域における特徴的な見方

- エネルギー（主に、物理）：量的・関係的な視点
- 粒子（主に、化学）：質的・実体的な視点
- 地球（主に、地学）：時間的・空間的な視点

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

課題の把握		課題の探究（追究）		課題の解決	
抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすとともに、課題を設定することができる	見通しをもち、検証できる仮説を設定し、それを確かめるための観察・実験の計画を評価・選択・決定することができる	観察・実験等の結果を分析・解釈することができる	仮説の妥当性を検討したり、考察したりすることができる	全体を振り返って推論したり、次の課題を発見したり、新たな知識やモデル等を創造したりすることができる	
図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる	
図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に、原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	探究活動を振り返り、自然の事物・現象に係る新たな課題について、原理・法則に従って再設定することができる	
	自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従い判断することができる	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できるところを見いだすことができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる		
		自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる		
		自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる			

大学入学  
共通テスト  
において  
問いたい  
「思考力・  
判断力・  
表現力」



【化学】

問題のねらい、主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

第1問 問題のねらい

化学的な事物・現象に関する原理・法則についての理解を基に、物質の状態と変化について、仮説の妥当性を評価し、情報を基にグラフを描いて現象に関する値を求めたり、必要な情報を抽出して現象に関する数的処理したりする力などを問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	【化学基礎】 (3) 物質の変化 ア 物質と化学反応式 (ア) 物質質量	アボガドロの法則、分子量についての理解		気体状態の酸化物の分子量について、アボガドロの法則を基に、同温・同圧・同体積のネオンの質量比から元素Xの酸化物の分子量を計算し、Xの原子量を求める。	78.8
問2 2	(2) 物質の変化と平衡 ア 化学反応とエネルギー (ア) 化学反応と熱・光	物質がもつ化学エネルギー、熱、化学方程式についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる。	炭素の同素体（黒鉛・ダイヤモンド・フラーレン）がもつ化学エネルギーについて、熱化学方程式の熱量を基に、その大小関係を判断する。	60.7
問3 3	(2) 物質の変化と平衡 イ 化学反応と化学平衡 (イ) 化学平衡とその移動	平衡の移動、ルシャトリエの原理についての理解	自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従って判断することができる。	NO <sub>2</sub> とN <sub>2</sub> O <sub>4</sub> の温度による平衡移動の実験について、ルシャトリエの原理と実験結果を基に、仮説の妥当性を検討し、条件設定が十分ではない状況下で吸熱・発熱を判断する。	43.0
問4	(1) 物質の状態と平衡 イ 溶液と平衡 (イ) 溶液とその性質	過冷却、溶液の凝固点降下についての理解	自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる。	溶液を冷却したときの温度変化について、過冷却や溶液の凝固点降下の知識と実験データを基に、時間と溶液の温度の関係（冷却曲線）をグラフに描き、そのグラフから凝固点を読み取る。	24.2
		溶液の凝固点降下度と溶質の濃度に関する理解	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従って、説明できることを見いだすことができる。	溶液の凝固点降下について、溶液の凝固点降下度と質量モル濃度の関係を基に、与えられたデータ（表）のうちから必要な数値を選び、前問で求めた溶液の凝固点の値を用いて、溶媒のモル凝固点降下を求める。	4.6

## 第2問 問題のねらい

無機物質の性質や反応についての理解を基に、様々な無機物質を題材として、グラフや実験の結果を活用し、現象に関する値や反応を分析することで、課題を解決したり、日常生活と無機物質の関わりについて考察したりする力などを問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	1 (2) 物質の変化と平衡 イ 化学反応と化学平衡 (ウ) 電離平衡	溶解度積についての理解	図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる。	金属イオンの濃度について、金属イオンが水溶液中に存在できる濃度とpHの関係を表すグラフを基に、特定のpHにおける金属イオンの濃度を読み取る。	65.7
	2・3 4・5 (3) 無機物質の性質と利用 ア 無機物質 (イ) 遷移元素		図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる。	2種類の金属イオンの分離について、金属イオンが水溶液中に存在できる濃度とpHの関係を表すグラフを基に、2種類の金属イオンを分離できる(片方だけをほぼ完全に沈殿させる) pHの範囲を読み取る。	7.6
問2	(3) 無機物質の性質と利用 ア 無機物質 (ア) 典型元素 (イ) 遷移元素	金属イオンの沈殿、錯イオンの形成による沈殿の溶解についての理解	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる。	金属イオンの系統分離について、金属イオンの沈殿や沈殿の溶解に関する知識と実験結果を基に、分離操作の全体像を把握し、水溶液中に含まれていないイオンを判断する。	20.6
			自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる。	金属イオンの系統分離について、金属イオンの沈殿や沈殿の溶解に関する知識と実験結果を基に、分離操作の全体像を把握し、分離されたイオンを判断する。	32.6
問3	(3) 無機物質の性質と利用 イ 無機物質と人間生活 (ア) 無機物質と人間生活	物質の性質、利用についての理解	/	身の回りで利用されている無機物質について、物質の性質や利用に関する知識を基に、性質・成分・製法等の正誤を判断する。	40.1

### 第3問 問題のねらい

有機化合物の構造、性質及び反応についての理解を基に、様々な有機化合物を題材として、実験結果や提示された情報を既得の知識と統合することで化合物の構造を推測したり、新たな実験を計画したりする力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	1	(4) 有機化合物の性質と利用 ア 有機化合物 (イ) 官能基をもつ化合物	元素分析と官能基をもつ化合物についての理解	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できることを見いだすことができる。	有機化合物について、元素分析の結果を基に分子式を求め、それが何に分類できるかを判断する。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	20.3
問2	2	(4) 有機化合物の性質と利用 ア 有機化合物 (ア) 炭化水素	脂肪族炭化水素の構造についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる。	三重結合をもつ炭化水素について、構造式を基に、水素1分子が付加したときの幾何異性体の存在及び水素2分子が付加したときの不斉炭素原子の存在を判断する。	46.6
問3	3・4	(4) 有機化合物の性質と利用 ア 有機化合物 (イ) 官能基をもつ化合物	官能基をもつ脂肪族化合物の構造・性質・反応についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる。	エステルについて、加水分解生成物に関する情報を基に、生成するビニルアルコールがアセトアルデヒドに異性化することを理解した上で構造を決定する。	31.4
	5				有機化合物の反応について、脂肪族化合物の反応に関する知識を基に、生成物のビニルアルコールが異性化することによりアセトアルデヒドが得られる反応を特定する。	43.8
問4	6・7・8	(4) 有機化合物の性質と利用 ア 有機化合物 (ウ) 芳香族化合物	芳香族化合物の構造・性質・反応についての理解	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できることを見いだすことができる。	芳香族化合物の合成経路について、提供された情報を基に、合成に必要な反応を選び出すだけでなく、配向性を考慮して反応の順序も踏まえ、ベンゼンから <i>m</i> -クロロアニリンを合成する実験を計画する。	10.0

#### 第4問 問題のねらい

化学反応式，物質質量，酸化還元反応についての理解を基に，水質調査に関する初見の実験を題材として，示された実験操作についての情報を整理しながら，現象に関する数的処理を一定の条件で行うことにより考察する力などを問う。

	解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1	1	【化学基礎】 (3) 物質の変化 イ 化学反応 (イ) 酸化と還元	酸化還元反応と 酸化数について の理解		原子の酸化数について，酸化数に関する理解を基に，シュウ酸と二酸化炭素中の炭素原子の酸化数を計算し，その増減を判断する。	51.4
問2	2	(2) 物質の変化と平衡 ウ 物質の変化と平衡に関する探究活動  【化学基礎】 (3) 物質の変化 ア 物質質量と化学反応式 (ア) 物質質量	酸化還元反応と 物質質量について の理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い，その結果を基に，原理・法則に従って考察することができる。	試料水と過マンガン酸カリウムの反応について，試料水と純水のそれぞれの測定操作を比較検証して整理した情報を基に，物質間に成り立つ反応の量的関係を把握する。	45.8
	3					35.9
	4					39.5
問3	5	(2) 物質の変化と平衡 ウ 物質の変化と平衡に関する探究活動	酸化還元反応， 化学反応式と物質質量についての理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い，その結果を基に，原理・法則に従って考察することができる。	試料水のCODについて，過マンガン酸イオンと酸素の半反応式（電子 $e^-$ を含むイオン反応式）及び試料水100 mLに含まれる有機化合物を酸化するのに必要な過マンガン酸カリウムの物質質量を基に，具体的に試料水のCODの値を求める。	43.6
	6・7	【化学基礎】 (3) 物質の変化 イ 化学反応 (イ) 酸化と還元				9.4



## 第5問 問題のねらい

有機化合物や高分子化合物の性質や反応についての理解と、分子の間に働く力などについての理解を基に、デンプンのりによる紙（セルロース）の接着現象を題材として、資料として示された反応から情報を抽出して関係性を見いだすことで、仮説を立てたり、実験結果として妥当性を判断したりする力などを問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	<p>(4) 有機化合物の性質と利用 ア 有機化合物 (イ) 官能基をもつ化合物</p> <p>(5) 高分子化合物の性質と利用 ア 高分子化合物 (イ) 天然高分子化合物</p>	官能基をもつ脂肪族化合物の構造・性質・反応についての理解	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる。	グルコースの鎖状構造について、官能基の性質を基に、鎖状構造中に存在する官能基を実験的に確認する方法を特定する。	39.0
問2 2	<p>(4) 有機化合物の性質と利用 ア 有機化合物 (イ) 官能基をもつ化合物</p> <p>(5) 高分子化合物の性質と利用 ア 高分子化合物 (イ) 天然高分子化合物</p>	グルコースの環状・鎖状の平衡反応についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる。	化合物の間で起こる反応について、グルコースの環状・鎖状の平衡反応の情報を基に、それを応用して生成する化合物を予想する。	31.3
問3 3	<p>(1) 物質の状態と平衡 ア 物質の状態とその変化 (ア) 状態変化</p>	分子間力と沸点についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる。	物質の状態や沸点について、分子間力に関する理解を基に、ファンデルワールス力で説明できないものを特定する。	30.2
問4 4	<p>(5) 高分子化合物の性質と利用 ア 高分子化合物 (ア) 合成高分子化合物</p>	合成高分子化合物の構造と性質の関連性についての理解	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる。	紙を貼り合わせることについて、リード文の情報と合成高分子化合物の構造式を基に、水素結合とファンデルワールス力の両方を考慮して、のりとして使用できる高分子化合物を判断する。	19.0

# 【理科】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

科学的な自然観を育成するための各領域における特徴的な見方

- エネルギー（主に、物理）：量的・関係的な視点
- 粒子（主に、化学）：質的・実体的な視点
- 生命（主に、生物）：多様性と共通性の視点
- 地球（主に、地学）：時間的・空間的な視点

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

課題の把握		課題の探究（追究）		課題の解決	
抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすとともに、課題を設定することができる	見通しをもち、検証できる仮説を設定し、それを確かめるための観察・実験の計画を評価・選択・決定することができる	観察・実験等の結果を分析・解釈することができる	仮説の妥当性を検討したり、考察したりすることができる	全体を振り返って推論したり、次の課題を発見したり、新たな知識やモデル等を創造したりすることができる	
図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる	
図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に、原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	探究活動を振り返り、自然の事物・現象に係る新たな課題について、原理・法則に従って再設定することができる	
	自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従い判断することができる	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できるところを見いだすことができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる		
		自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる		
		自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる			

大学入学  
共通テスト  
において  
問いたい  
「思考力・  
判断力・  
表現力」

【生物】

問題のねらい、主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

第1問 問題のねらい

生物の集団の多様な分布についての理解と、動物の受精後の発生過程についての理解を基に、ゴカイを題材として、初見の資料から必要なデータや条件を抽出・収集し、情報を統合しながら課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	(4) 生態と環境 ア 個体群と生物群集 (ア) 個体群	個体群の成長、個体群密度、密度効果についての理解	図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる。	干潟にいる生物の個体の分布について、複数の方形枠を用いて調査した結果を示した表の値を基に、生物の密度や分布に係る情報を抽出し、分布様式を特定する。	36.9
問2 2		個体群の成長、個体群密度、密度効果についての理解	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できることを見いだすことができる。	ゴカイの生息密度と成長の関係について、表に示した体重増加量等の情報を基に、大型個体と小型個体の生息密度と成長の関係性について解釈する。	66.4
問3 3	(2) 生殖と発生 イ 動物の発生 (イ) 初期発生の過程	卵割、ウニの発生についての理解	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる。	ゴカイの発生過程について、図で示した複数のスケッチを基に、ウニの発生の学習で獲得した概念的知識との共通点などの情報を統合することで、発生の順に並べる。	77.2

## 第2問A 問題のねらい

バイオテクノロジーや減数分裂についての理解を基に、マウスを題材として、初見の資料から必要なデータや条件を抽出・収集し、情報を統合しながら課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	(1) 生命現象と物質 ウ 遺伝情報の発現 (ア) 遺伝情報とその発現	転写, スプライシング, 翻訳についての理解	自然の事物・現象に係る情報を検証し, 設定する条件などについて, 原理・法則に従い判断することができる。	遺伝子の発現について, その概念的知識を基に, 機能するタンパク質の合成ができなくなるよう遺伝子の塩基配列に変異を起こす方法として適当でないものを特定する。	37.8
問2 2	(2) 生殖と発生 イ 動物の発生 (ア) 配偶子形成と受精	動物の配偶子形成についての理解	図・表や資料等を基に, 設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を, 原理・法則に従い, 整理することができる。	減数分裂の過程について, 複数の図を比較検証して整理した情報を基に, 減数分裂の各期の特徴に係る概念的知識に当てはめる。	23.4
問3 3・4	(1) 生命現象と物質 ウ 遺伝情報の発現 (ア) 遺伝情報とその発現  (2) 生殖と発生 イ 動物の発生 (ア) 配偶子形成と受精	遺伝子の発現, 動物の配偶子形成についての理解	新たな情報が, 自然の事物・現象の基本的な概念によって, 原理・法則に従い, 説明できることを見いだすことができる。	受精に係る遺伝子の働きについて, 実験の結果に示された情報を基に, 精子と卵のそれぞれで働く遺伝子を特定し, その働きについて解釈する。	27.7

## 第2問B 問題のねらい

中学校で学習する花のつくり, 植物の器官の分化についての理解を基に, チューリップやスイレンを題材として, 情報を整理・統合するとともに, 植物が環境変化に反応する仕組みについての理解を基に, 花卉の成長について, データを分析し, 生命現象について考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4 5	(2) 生殖と発生 ウ 植物の発生 (イ) 植物の器官の分化	被子植物の器官分化についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と, 自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を, 原理・法則に従って判断することができる。	チューリップのA・B・C遺伝子の働きについて, 会話文中に示された情報を基に, ABCモデルに係る概念的知識との整合性について判断する。	49.8
問5 6		被子植物の器官分化についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と, 自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を, 原理・法則に従って判断することができる。	スイレンのA・B・C遺伝子の働きについて, 会話文中に示された情報を基に, ABCモデルに係る概念的知識との整合性について判断する。	52.1
問6 7	(3) 生物の環境応答 イ 植物の環境応答 (ア) 植物の環境応答	屈性と傾性についての理解	新たな情報が, 自然の事物・現象の基本的な概念によって, 原理・法則に従い, 説明できることを見いだすことができる。	チューリップの花弁の内側・外側の温度傾性で見られる偏差成長について, 温度変化前後の表皮片の長さを示したグラフから得た情報を基に, その注目点と仕組みを特定する。	6.1

### 第3問A 問題のねらい

中学校で学習する葉のつくり，生物基礎で扱う生態系と物質循環，及び生物で扱う光合成についての理解を基に，光合成が与える影響を題材として，多様な視点から情報を整理・統合するとともに，グラフを分析・解釈した結果を組み合わせることで考察する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	(1) 生命現象と物質 イ 代謝 (イ) 光合成  (3) 生物の環境応答 イ 植物の環境応答 (ア) 植物の環境応答	光合成，植物の環境応答についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し，原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる。	低温時のCO <sub>2</sub> 吸収速度の低下について，気孔の開閉や葉緑体の働きに係る概念的な知識を基に，原因を特定するために新たに比較すべき条件を決める。	20.6
問2		炭素の循環，光合成についての理解	自然の事物・現象に係る値について，原理・法則に従って処理し，グラフ等を活用して分析することができる。	CO <sub>2</sub> 濃度の変動と光合成の季節変動について，大気中の月別の二酸化炭素濃度を示したグラフを分析し，光合成による影響が最も大きい月を特定する。	57.9
問3		炭素の循環，光合成，化学合成，光合成細菌についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を基に，見いだした課題について，原理・法則に従って推論することができる。	O <sub>2</sub> 濃度の季節変動について，地球上の光合成をする生物がある一つの種だけになったと仮定したとき，変動の幅が最も小さくなると考えられる生物を特定する。	34.9

### 第3問B 問題のねらい

植物の窒素同化の過程に関する理解を基に，「農薬」が働く仕組みを題材として，科学的に理解し，情報を統合しながら課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問4	(1) 生命現象と物質 イ 代謝 (ウ) 窒素同化	物質の抽出実験の方法についての理解	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため，原理・法則に従い，その方法・過程などを決めることができる。	除草剤が植物を枯らす仕組みについて，物質を抽出する実験を行う方法として，複数の試料を適切に比較するために行うべき処理を確定する。	28.7
問5		窒素の循環，植物の窒素同化についての理解	探究活動を振り返り，自然の事物・現象に係る新たな課題について，原理・法則に従って再設定することができる。	除草剤が植物を枯らす仕組みに係る議論を通して，探究活動を振り返り，植物を枯死させると考えられる二つの原因について，特定するために行う実験内容の有用性を判断する。	11.5
		8・9			21.9

#### 第4問A 問題のねらい

バイオームの形成過程についての理解を基に、花粉や土壌に含まれる微細な炭化物を題材として、初見の資料から必要なデータや条件を抽出・収集し、情報を統合しながら課題を解決する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1	1	(4) 生態と環境 イ 生態系 (イ) 生態系と生物多様性  【生物基礎】 (3) 生物の多様性と生態系	植生の遷移, 生物多様性についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し, 原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる。	堆積した花粉量の推移データから分かるバイオームの変化について, 植生の遷移やバイオームに係る概念的な知識を基に, 図の花粉量の変化について説明できない現象を特定する。	15.0
問2	2	ア 植生の多様性と分布 (ア) 植生と遷移 (イ) 気候とバイオーム	植生の遷移, 二次遷移, 生物多様性, かく乱についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と, 自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を, 原理・法則に従って判断することができる。	堆積した花粉や微粒炭の推移データから分かる二次遷移の進行について, 図の花粉量や微粒炭の重量の変化から説明できる現象を特定する。	10.1

#### 第4問B 問題のねらい

生物の系統についての理解を基に、花粉の進化を題材として、初見の資料から必要なデータや条件を抽出・収集し、情報を分析して解釈する力を問う。

	解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
			知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問3	3	(5) 生物の進化と系統 ア 生物の進化の仕組み (イ) 進化の仕組み	進化の仕組み, 変異と種分化, 系統と分類についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを, 原理・法則に従って比較分析することができる。	花粉管の発芽孔の数と進化した過程について, 観察した発芽孔の数と, 複数の被子植物に係る分子系統樹を基に分析し, その過程について解釈する。	41.9
問4	4	イ 生物の系統 (ア) 生物の系統	進化の仕組み, 変異と種分化, 系統と分類についての理解	新たな情報が, 自然の事物・現象の基本的な概念によって, 原理・法則に従い, 説明できることを見いだすことができる。	被子植物の多様化について, 発芽孔の数, 生育していた年代や場所の情報を基に, 被子植物の世界的な分布について解釈する。	53.1
問5	5	(5) 生物の進化と系統 ア 生物の進化の仕組み (ア) 生物の起源と生物の変遷	地質時代についての理解	図・表や資料等から, 自然の事物・現象に係る情報を, 原理・法則に従って抽出し, 関係性などを発見することができる。	被子植物が出現する以前に絶滅した生物について, アウストラロピテクス, アンモナイト, イチョウ, 恐竜, 三葉虫の中から特定する。	64.1

### 第5問A 問題のねらい

遺伝子発現の実験に関する技能などを基に、ホタルの発光を触媒する酵素を題材として、表やグラフを活用し、値を適切な手順で数的処理することで、情報を分析して解釈する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	(1) 生命現象と物質 ウ 遺伝情報の発現 (イ) 遺伝子の発現調節 (ウ) バイオテクノロジー	遺伝子組換え実験の方法についての理解	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる。	大腸菌が合成するルシフェラーゼの検出について、実験の結果をより明確にするために行う追加の手法として適当でないものを特定する。	45.9
問2 2		遺伝子組換えについての理解	自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる。	260nmの波長の光を利用したDNA溶液の濃度推定について、表の数値を基にグラフを作成し、グラフを活用してプラスミドDNAの総量を求める。	13.1

### 第5問B 問題のねらい

生物進化における突然変異、自然選択、遺伝的浮動などについての理解を基に、ヒトの耳垢の表現型を題材として、資料から情報を抽出・収集し、情報を統合して考察するなど、課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問3 3	(5) 生物の進化と系統 ア 生物の進化の仕組み (イ) 進化の仕組み	遺伝的浮動についての理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる。	耳垢の対立遺伝子Gの頻度の推定値について、表の数値を基に計算し、値を求める。	9.0
問4 4		遺伝的浮動についての理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる。	耳垢の遺伝子型GAの人数の推定値について、表の値を基に計算し、値を求める。	24.4
問5 5		遺伝的浮動、遺伝子頻度についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に、原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる。	耳垢の対立遺伝子Aの頻度の地域差について、表の各地域の対立遺伝子Aの頻度を比較し、その適応や分布について考察する。	4.6

第6問 問題のねらい

ヒトのホルモンによる調節についての理解を基に、ヒトとイヌの絆の形成を題材として、初見の資料から必要なデータや条件を抽出・収集し、情報を統合しながら課題を解決する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1 1	(3) 生物の環境応答 ア 動物の反応と行動 (イ) 動物の行動	動物の行動についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる。	飼い主とイヌの見つめ合う時間と尿中のオキシトシンの量の関係について、複数のグラフの変化を分析して、統合し、実験結果を適切に解釈する。	65.7
問2 2		動物の行動についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる。	オキシトシンが飼い主とイヌに与える効果について、新たに複数のグラフの変化を分析して、統合し、その効果を特定する。	56.2
問3 3		動物の行動についての理解	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる。	見つめ合い行動とオキシトシンの分泌との関係について、互いに効果を強め合うと証明するため、これまでの実験結果を基に、新たな情報を追加するとき、その内容を考察する。	11.4



# 【理科】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

科学的な自然観を育成するための各領域における特徴的な見方

- エネルギー（主に、物理）：量的・関係的な視点 ●粒子（主に、化学）：質的・実体的な視点
- 生命（主に、生物）：多様性と共通性の視点 ●地球（主に、地学）：時間的・空間的な視点

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

課題の把握		課題の探究（追究）		課題の解決	
抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすとともに、課題を設定することができる	見通しをもち、検証できる仮説を設定し、それを確かめるための観察・実験の計画を評価・選択・決定することができる	観察・実験等の結果を分析・解釈することができる	仮説の妥当性を検討したり、考察したりすることができる	全体を振り返って推論したり、次の課題を発見したり、新たな知識やモデル等を創造したりすることができる	
図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる	
図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に、原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	探究活動を振り返り、自然の事物・現象に係る新たな課題について、原理・法則に従って再設定することができる	
	自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従い判断することができる	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できるところを見いだすことができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる		
		自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる		
		自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる			

大学入学  
共通テスト  
において  
問いたい  
「思考力・  
判断力・  
表現力」



# 【地学】

## 問題のねらい，主に問いたい資質・能力及び小問正答率（速報値）等

### 第1問 問題のねらい

地学的な事物・現象に関する原理・法則についての理解を基に，物質と熱の循環を題材として，地学の各領域に共通する視点で，新たな情報と既得の知識を関連付けながら活用する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)
		知識・技能	思考力・判断力・表現力		
問1 1	(2) 地球の活動と歴史 ア 地球の活動 (イ) 地震と地殻変動	海洋プレート，地震の発生についての理解		地球内部の物質の対流や循環について，東北日本における大陸プレートと海洋プレートの関係と地震発生箇所に関する図を基に，海洋プレートの生成に関する語句を特定する。	84.7
問2 2	(2) 地球の活動と歴史 ア 地球の活動 (ア) プレートテクトニクス	マンツルの動態，ホットスポットについての理解		マンツルプルームとホットスポットについて，プレートテクトニクスとその成立過程に関する理解を基に，その特徴に係る内容を整理する。	15.5
問3 3	(2) 地球の活動と歴史 イ 地球の歴史 (ア) 地表の変化	風化，侵食，堆積についての理解		地形の形成や変化について，地球表層の水の循環によって引き起こされる現象である風化・侵食・堆積に関する理解を基に，内容を整理する。	44.0
問4 4	(3) 地球の大気と海洋 イ 海洋と海水の運動 (イ) 海水の運動	海洋循環についての理解	図・表や資料等を基に，設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を，原理・法則に従い，整理することができる。	海洋の循環について，海水の移動速度などの情報を基に，深層の海水が再び海面に上昇するまでの年数の概算を求める。	60.2
問5 5	(3) 地球の大気と海洋 ア 大気と海洋の構造と運動 (イ) 大気と海洋の運動と気象	大気と海洋における熱移動についての理解	図・表や資料等を基に，設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を，原理・法則に従い，整理することができる。	大気と海洋の循環と気象について，低緯度域と高緯度域の温度差による大気と海洋の循環に伴う熱輸送などに関する理解を基に，その特徴に係る内容を整理する。	37.7
問6 6	(4) 宇宙の構造 ア 太陽系 (ウ) 太陽の活動	太陽表面における対流についての理解		太陽の表面に見られる特徴について，太陽の活動と内部構造に関する理解を基に，それを表す語句を特定する。	60.4

## 第2問 問題のねらい

マグマが発生、分化し、その過程でつくられる多様な火成岩と、元の岩石が高温・高圧下でできた変成岩についての理解を基に、生徒が探究活動に取り組む場面を題材として、図・表等を活用し、獲得した情報を整理・統合して課題を解決する力を問う。

解答番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率(%)	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力			
問1	1	(2) 地球の活動と歴史 ア 地球の活動 (エ) 変成作用と変成岩	へき開の観察方法についての理解		岩石のへき開について、鉱物の性質に関する理解を基に、その確認方法について内容を特定する。	68.3
問2	2	(2) 地球の活動と歴史 ウ 地球の活動と歴史に関する探究活動	偏光板を用いた岩石の観察方法についての理解		干渉色の観察について、偏光顕微鏡の原理などに関する理解を基に、偏光板と生物顕微鏡を用いて岩石・鉱物を観察する方法を設定する。	53.2
問3	3		岩石の色指数についての理解		石材(岩石)の色指数について、顕微鏡で観察した資料を基に、値を求める。	48.4
問4	4		(2) 地球の活動と歴史 ア 地球の活動 (ウ) 火成活動	火成岩の組成についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる。	岩石(火成岩)について、火成岩の鉱物組成等を示した資料を基に、複数の観察結果を統合して、分類する。
問5	5		岩石中の結晶の生成についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる。	石材について、火成岩の形成などに関する理解を基に、結晶の特質とそれらの生成プロセスに係る内容を特定する。	30.2
問6	6	(2) 地球の活動と歴史 ウ 地球の活動と歴史に関する探究活動	地学的に探究する方法についての理解	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる。	ポスターに示された探究活動の結論について、報告書を作成する方法に関する理解を基に、その内容として適切なものを特定する。	36.9

### 第3問 問題のねらい

大気の構造・運動と気象，海水の運動や循環についての理解を基に，先端的な観測技術によるデータ等を題材として，情報を分析・解釈して，原理・法則に従って考察する力を問う。

	解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)
			知識・技能	思考力・判断力・ 表現力		
問1	1	(3) 地球の大気と海洋 ア 大気の構造と運動 (ア) 大気の構造	飽和水蒸気圧についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に，原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる。	室内の湿度について，除湿を伴う冷房による湿度変化と，温度と飽和水蒸気圧との関係のグラフを基に，除湿しない場合の値(湿度)を求める。	58.3
問2	2	(3) 地球の大気と海洋 ア 大気と海洋の構造と運動 (イ) 大気と海洋の運動と気象	海面での蒸発と風速の関係，及びその数式での表現についての理解	自然の事物・現象に係る数式的処理を一定の条件で行い，その結果を基に，原理・法則に従って考察することができる。	海面での蒸発量について，空気の単位質量あたりに含まれる水蒸気量の海面近くでの勾配と，風速に関するグラフを基に，蒸発量を表す式を推定する。	11.1
問3	3		台風の特徴についての理解	/	台風の発生について，大循環と対流による現象等に関する理解を基に，その発生メカニズムなどについての内容をとらえる。(当てはまる選択肢を全て選択させる問題)	22.4
問4	4		天気図と海洋の熱輸送の関係の理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを，原理・法則に従って比較分析することができる。	冬季の日本近海について，大気の運動と気象に関する理解を基に，複数の天気図から，潜熱が最も大量に海洋から大気に運ばれているものを特定する。	27.9
問5	5	(3) 地球の大気と海洋 イ 海洋と海水の運動 (イ) 海水の運動	地衡流についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と，自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を，原理・法則に従って判断することができる。	黒潮について，地衡流の生成メカニズムに関する理解を基に，流速が大きくなる必要がある変化に係る仮説を立てる。	25.8

#### 第4問A・B 問題のねらい

地球と惑星の運動、太陽系天体の特徴や運動、太陽の活動及び恒星の性質と進化についての理解を基に、皆既日食の観察などを題材として、新たな情報と既得の知識を関連付けながら関係性を見いだすとともに、与えられた値を適切に処理する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)	
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力			
問1	1	(4) 宇宙の構造 ア 太陽系 (ウ) 太陽の活動	皆既日食、太陽 観察についての 理解		皆既日食について、太陽周囲 の大気に関する理解を基に、そ の特徴などをとらえる。	57.4
問2	2	(4) 宇宙の構造 ア 太陽系 (イ) 太陽系天体とその運 動	惑星の特徴につ いての理解		二つの惑星の分類と大気につ いて、太陽系天体に関する理解 を基に、その特徴をとらえる。	64.4
問3	3	(4) 宇宙の構造 イ 恒星と銀河系 (ア) 恒星の性質と進化	HR図、恒星の 型についての理 解	図・表や資料等から、 自然の事物・現象に係る 情報を、原理・法則に 従って抽出し、関係性な どを発見することができる。	ベテルギウスとシリウスにつ いて、恒星の性質に関する理解 を基に、HR図（恒星の絶対等 級とスペクトル型に関連する特 性図）を活用し、分類する。	62.3
問4	4	(4) 宇宙の構造 ア 太陽系 (ア) 地球の自転と公転	緯度経度と距離 の関係についての 理解	自然の事物・現象に係 る値について、原理・法 則に従って処理し、グラ フ等を活用して分析する ことができる。	皆既日食について、緯度、経 度、食が最大になった時刻な どの情報を基に、月影の移動速 度を概算する。	46.5
問5	5		月影の移動につ いての幾何学的 な理解	図・表や資料等から、 自然の事物・現象に係る 情報を、原理・法則に 従って抽出し、関係性な どを発見することができる。	地球と月の軌道について、月 の公転速度、地球の自転速度、 観測地の緯度などの情報を基 に、月影の移動速度を示す式を 特定する。	29.4

### 第5問 問題のねらい

地表の変化，地球環境の変遷，日本列島の成り立ち及び地球内部の構造や状態，構成物質についての理解を基に，海洋プレートの移動に伴ってできる新たな地層の形成等を題材として，示された条件でグラフから情報を読み取り，それらを検証・整理して整合性を考察・判断するなど，課題を解決する力を問う。

解答 番号	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要	正答率 (%)	
		知識・技能	思考力・判断力・ 表現力			
問1	1	(2) 地球の活動と歴史 イ 地球の歴史 (ア) 地表の変化	堆積に係る図についての理解	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを，原理・法則に従って比較分析することができる。	四国沖の南海トラフについて，海底下掘削深度と堆積物の年代を示すデータを基に，海底下の地質構造について分析・解釈する。	37.5
問2	2		堆積とタービダイト生成に関する複数の図についての理解	自然の事物・現象に係る数的処理を一定の条件で行い，その結果を基に，原理・法則に従って考察することができる。	タービダイトを主とする地層について，調査結果と示された内容を基に，地層の生成の時間的経緯について考察し，適切なグラフを特定する。	47.2
問3	3	(2) 地球の活動と歴史 イ 地球の歴史 (ウ) 地球環境の変遷	示準化石についての理解		放散虫の化石について，示準化石（地層の時代の特定に有益な標準的化石）としての特性に関する理解を基に，その特性をとらえる。	75.3
問4	4	(2) 地球の活動と歴史 イ 地球の歴史 (エ) 日本列島の成り立ち	付加体生成についての理解	観察・実験等の結果から考察した情報と，自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を，原理・法則に従って判断することができる。	四国南部の地質構造について，四国地方から南海トラフにかかる模式断面図やモデル化した地層の情報を基に，付加体の生成と、特質について推定する。	27.5
問5	5	(1) 地球の概観 イ 地球の内部 (ア) 地球の内部構造	地震波についての理解	自然の事物・現象に係る情報を検証し，設定する条件などについて，原理・法則に従い判断することができる。	P波について，地震波の伝わり方に基づいた地球内部の構造に関する理解を基に，複数の情報を統合し，走時曲線と地震波の速度に係る語句を特定する。	28.9
問6	6	(1) 地球の概観 イ 地球の内部 (イ) 地球内部の状態と物質	地球の深部構造についての理解	図・表や資料等を基に，設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を，原理・法則に従い，整理することができる。	地球内部の温度・圧力と深さの関係について，地球内部の温度，密度，圧力及び地震波の速度分布などに関する理解を基に，情報を整理する。	23.1

# 【理科】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

科学的な自然観を育成するための各領域における特徴的な見方

- エネルギー（主に、物理）：量的・関係的な視点
- 粒子（主に、化学）：質的・実体的な視点
- 地球（主に、地学）：時間的・空間的な視点

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

課題の把握		課題の探究（追究）		課題の解決	
抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすとともに、課題を設定することができる	見通しをもち、検証できる仮説を設定し、それを確かめるための観察・実験の計画を評価・選択・決定することができる	観察・実験等の結果を分析・解釈することができる	仮説の妥当性を検討したり、考察したりすることができる	全体を振り返って推論したり、次の課題を発見したり、新たな知識やモデル等を創造したりすることができる	
図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念と、観察・実験等の結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる	
図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる	自然の事物・現象に係る基本的な概念を基に、原理・法則に従って情報を一定の条件で処理することができる	自然の事物・現象に係る新たに得た情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	探究活動を振り返り、自然の事物・現象に係る新たな課題について、原理・法則に従って再設定することができる	
	自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従い判断することができる	新たな情報が、自然の事物・現象の基本的な概念によって、原理・法則に従い、説明できるところを見いだすことができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる		
		自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる		
		自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる			

大学入学  
共通テスト  
において  
問いたい  
「思考力・  
判断力・  
表現力」